

# 川柳雑誌

入門も奥義も川柳雑誌にか

麻生路郎☆主宰



八月號

Pensoj flugas trans la land-limon  
THE SENRYU ZASSHI

No. 363

昭和十二年七月一日第三種郵便物認可  
昭和十二年八月一日発行第十二卷第八号

(第一回一日発行)

創刊大正十三年・通卷三百六十三号

川柳雜誌社主催

# 川柳納涼句會

日時 八月七日(水)午後六時  
場所 光明寺(電話の九二六〇)  
天王寺区下寺町二丁目市バス停前  
(市電下寺町又は日本橋三丁目下車)

兼題「介抱」(三句) 麻生路郎 選

「水着」(三句) 中島生々庵 選

「扇風機」(三句) 正本水客 選

「化粧品」(三句) 水谷竹莊 選

北国柳壇の選者

麻生路郎先生を迎えて

## 北国川柳大會

北国柳人の要望に應えて、  
我社では新涼の佳日をとし  
北国柳壇選者をお迎えして  
茲に川柳大會を開催するこ  
ととなった。柳界への登竜  
門、この機をお見のがしな  
く初心の方は勿論皆様こそ  
つて参加されたい。

宛先 金沢市南町北国新聞社北国川柳大會係  
呈賞 ★各題秀句 ★路郎選天位に揮毫短冊  
会費 出席者五拾円(当日受付)投句のみ三十円(切手可)

猛夏を忘れる句三昧も楽しいではありま  
せんか。初心の方も御遠慮なくお越し下  
さい。浴衣がけで、開襟シャツで寛いだ  
句会を持ちましょう。

席題 三題(当日発表)

柳話 麻生路郎  
句評 清水白柳子  
呈賞 ★各題天位 ★路郎選天位に不朽洞賞  
会費 五拾円

川柳雜誌社句會部  
電・住吉六〇八一

日時 九月八日(日)正午  
場所 金沢市南町北国新聞社三階講堂  
兼題 「顔合せ」(三句) 麻生路郎 選  
「女流」(三句) 麻生路郎 選  
「公園」(三句) 船木夢考 選  
「祝辞」(三句) 清水白柳子 選  
「ニュース」(三句) 桜井六葉 選  
「慌てる」(三句) 中島鬼水 選  
「虫」(三句) 山上千太郎 選

締切 八月三十一日着便  
席題 三題(当日発表)  
講演 「句作する人達に」 麻生路郎

主催 北国新聞社  
後援 県下各川柳社

スートで  
着心地のよい

O.S.K.  
レディースード

大坂商店  
大阪市東区平野町一丁目二番地  
電話(94) 1745・5563

御贈答に  
大丸の商品券  
大丸の大阪心齋橋  
三百円・一万円  
京都、阪、神三店その他  
高知、鳥取、下関、他  
別子、博多に共通  
一階 御堂筋側

麻生葎乃著・米田三男之介装幀

福壽草

定価二百五十円  
送費 三十円  
菊半型・函入

本書は川柳の母・麻生葎乃女史の異色ある作品の金字  
塔です。各方面から御好評をいただけて居ります。

大阪市住吉区万代西五の二五

発行所 川柳雜誌社

郵政口座大阪七五〇五〇番 電話住吉(94)六〇八一

## 窓 口 談 義



## 私はもう少し解放されたい

私は六十ぐらいで一応私の

従業の仕事の切りあげるつもりでいたが、それが思

えずに七十になつてしまつた。このくいちがいはたし

かに戦争が責任を持つてく

れる筈である。その戦争も敗戦ではあつたが、私の人

生に附加するものすくなくなかつたことは疑う余地

がない。それを考えると私の仕事の予定表の上に十年

の延長があつたとしても悔

っている。

とは云うものゝ、こちら

で一応はじめがつけたい。

そうした考え方が毎朝眼が覚めると私のアタマを占領

する。

ではどうしたらいいのか

現在の煩わしいいろ／＼の糸を絶ち切る手段は——こ

れは容易なワザではない。漂然と家を捨てての訳にも行

かぬとしたら、どうなるのか。いろんな仕事の關係を

断ち切る英断さがないとし

## 麻 生 路 郎

たら、どうなるのか。

三十余年前、私は

一階を降りて何処へ行く

身ぞ

と詠んだが、自殺もせずに

七十の今日まで生をむさぼ

つて来た。どう考えても、

こちらで多少の角度を変え

## 不朽洞句帖

麻生路郎

クイックスローククイックスロー古稀を華やかに

水都祭花火も見ずにのまされる

部屋の広さの淋みしさも年齢

庶務課長一人が今日はモーニング

ふるさとも寺より外に用がなく

小料理屋女の匂いだけでよし

一九五七・七

たい。イヤ改めて出直したい。それには作家としてのもつと／＼孤独性が欲しい。しかし、雑誌を経営している限り、常にそうした心境にありたいと云う考え方には大きなムジュンがある。私のなやみはそこにある。

私はもう少し解放されたい。

そして、私自身の芸術

に生きること、短詩界が

少しでもよくなることに微

力をつくすことに私の仕事

を絞って行きたい。

## 八月号目次

題 字……………麻生路郎  
表 紙……………野尻 弘

私はもう少し解放されたい……………麻生路郎(三)

不朽洞句帖……………麻生路郎(三)

川柳家の二十四時

後藤蝶五郎・連水真珠洞(四)  
吉田 機司……………(五)

川柳文学の再検討……………田中 辰二(四)

日本人の性根……………後藤 海志(三)

東西川柳の普遍性……………品川 陣居(六)

不朽洞賞杯の喜び……………山田 季賛(三)

新川柳鑑賞……………麻生路郎(三)

古稀祝賀川柳大会……………戸田 古方(三)

嚴選の意義……………木口 賀峰(四)

飛燕往来……………不二田三夫(五)

杖 記……………麻生路郎(六)

社の黒板……………東野 大八(二)

あんどうのこと……………室井八九才(三)

★ 川 柳……………麻生路郎選(六)

同舟近詠……………諸 家(一〇)

近作柳 檣……………麻生路郎選(六)

一路集〔案器〕……………北川春集選(六)

金 泥……………西原七面山選(三)

各地柳壇……………麻生路郎選(三)

川柳第二教室……………清水白柳子(三)

川柳の本質……………清水白柳子(三)

質疑に答える……………清水白柳子(三)

不朽洞会から……………(三)

柳界展望……………(二)

編集室から……………(二)

# 川柳文学の再検討

## (一)

田中辰二



「川柳」は機智の文学とも言える。しかし文学価値からしてこれをその埒外に置く傾向が未だに強い。もとより大衆性の掟がかりを持った軽文学としての価値すら無いような駄作は無数にある。これは独り川柳ばかりで無く、俳句・短歌のような短詩形の所謂律文でも散文形式のものでも同様で珠玉はその僅小部分と云っても過言では無い。

古来の傑出した古典文学にのみ眩惑された眼で雑多の駄作を眺め表面的観察や皮相的印象で第二義的とか非芸術性の判断を下すことはそれ自身危険であるように思う。と同時に隆盛時から現代までの数十万句を眺め味読してみることと従来の概念と多少違った結果が帰納されるように考えられる。此の点を例証をあげ系統づけて論述したいと試み

かけたが紙数の制限もあり且つ余裕もないので命ぜられるまゝ短時日に書き改めた粗雑な感想の一部を以て大方の叱正を乞いたいと思う。

川柳文学の母胎は俳諧であり俳諧の名は古くから使用されている。各務支考は

「そも俳諧の伝といふは、もろこしの史記に滑稽の名ありて言楚の比より秦漢の間までに七八人の言行を記し太史公が天道の賛詞より或は笑言をもて大道にかなふとも或は談笑をもて諷諷すとも、滑稽は酒桶(こが)なるよし。姚氏は俳諧のごとしといへる、畢竟は虚実の自在より言語に遊ぶのいひならん。しかれば俳諧の道たるや本より虚実の談(さばき)ならんには其の道は三皇五帝より禹湯文武に伝ひて其名は司馬遷が史記にさだまり

ぬと知るべし云々」(京保四年板、支考

「俳諧十論」)

に説き滑稽の解に「史記評林」の「崔浩曰、言出<sub>レ</sub>口成<sub>レ</sub>章、詞不<sub>レ</sub>窮竭、若<sub>二</sub>滑稽之吐<sub>レ</sub>酒<sub>一</sub>」或曰、諧語、滑稽知計疾出<sub>レ</sub>或曰、多智田曲之貌也」或曰、漢書、談笑類俳優、註俳諧之雜戲也」の文まで引用している。この史記滑稽伝考物の「滑稽酒器也、言出<sub>レ</sub>口成<sub>レ</sub>章、詞不<sub>レ</sub>窮竭」若<sub>二</sub>滑稽之吐<sub>レ</sub>酒<sub>一</sub>」は「奥儀抄」などにも引用されている所で「漢書之俳諧者滑稽也滑稽義也稽不<sub>レ</sub>尽也」とも記されているので元来は機智中心のものであり後世の笑そのものとは稍語義に於てズレているのである。滑稽と俳諧を同義に用いられたのは近世文学にも見出される。森川許六の「歴代滑稽伝」(正徳五年板)

などはそれである。更に

「俳諧といふは黄門定家卿の云、利口也。物をあざむきたる心なるべし。心なきものに心を伸物いはぬものに物いはせ利口したる駄也。韻学大成に鄭集詩語多<sub>二</sub>俳諧<sub>一</sub>、俳は戯也、諧は和也。唐にたはむれて作れる詩を俳諧と云有……(中略)古今集にざれ歌を俳諧と定む。是になぞらへて連歌のたゞことを世に俳諧の連歌といふ。夫俳諧という事はじまりて代々利口のみにはたはむれ先達終に誠を知らず云々」(安永五年板行 服部士芳「しろさうし」)

などとも見える。此の「しろさうし」を含む土芳の「三さうし」が「去来抄」その他の蕉門の諸俳書から繰り上げられた偽書であるにせよ、同じく真偽疑わしい享和二十一年板の「二十五箇条」中の「はいかい二字の事」の条に見える

「八雲御抄にも俳諧と諧諧の二様あり、され共、我家には、はいかいに古人なしと看破したる眼より女とも妙とも名は別にさだむべけれども言語に遊ぶといふ道理を知らば我家には今より俳諧の二字も然るべし。他門に対し穿鑿すべからず」

と正風で俳字を使用するのに対し貞門

派やその他の俳書に誹字を用いているのは古今和歌集卷十九雑歌中の誹諧歌の「誹」を踏襲したものである。此の誹俳何れも用いる例は支那の文獻にも見えるので古今和歌集では誹の字を貞応元年本、企二年本、嘉祿本の定家本古今集はじめ多くの伝本に使用している。尤も俊賴自筆本の古今和歌集には俳の字を使用したという事が清輔本の勘物に記されていることも先覚は既に指摘している。もとより俳誹は音義も均しくないし俳は「マネル」義に使用された例が多く誹は「ソシル」義に展開して行く内容をもったものに使用もされる。古今集卷十九所載の誹諧歌五十八首（元永本「古今和歌集」では六十一首）の何れを見ても「ソシル」ものは見出されず同音異義の言語を使用して機智を働かして見たり、理智的な解釈から来る興味、或は

(一〇三九) 思へども思はずとのみ

言ふなればいなや思はじ思ふかひなし (読人知らず)

(一〇四一) 我を思ふ人を思はぬ  
報いにやわが思ふ人の我を思はぬ

のような同音くりかえしの興味をねらった句で結局言語の遊戲的地位から離れてはいない。この同音くりかえしによって気分を明朗にするものは既に万

葉集卷一の二六、卷二の一七、一八、卷三の二、三など用例が種々見出される。

結局誹諧と記されてあつても「なぐさみ」「あそび」の文学であり本質的に明るさを多分に含んだ和やかな形態内容を持ったものから出發しているようにあり、悲壯美、嚴肅美は見出し得ないが、そうしたものの企図し得ないゆとりをもっている。而して可笑味なども其の気分から生れて来る。可笑味は後世をかしみと同語のようにされているが「をかし」の用例は王朝期の日記、隨筆、物語類に煩わしい程あつても鎌倉、室町期以後の文芸にあらわれて来る後世的な可笑味と違つて趣味性を中心としたものが大部である。まして上代では此の可笑味の笑は咲の字で表わされ、記にも天宇受売命の条「上巻」神倭伊波礼毗古命(中巻)木梨之輕太子の説話(下巻)に見えるし、俳は「ワザオキ」或は「マネル」義で日本書紀卷一神代上の天細女命の説話、全卷二神代下一書日の九彥火々出見命の条などに用例がある。そして常にあるべき形が殊更に変形され、緊張した精神が意識的にせよ無意識的にせよ放心に近い状態におかれる所に可笑味は顯著に見出されるのだが、その可笑味は理智を殊更要求もしなければ道徳から

出發しているのでも無く、時にはそれと全く反するように見えるが、あまりに虚飾の多い道義や理論又は姿態から感じる人生との矛盾を客観的に点出する事によつて一面人生へ反省を与える力も否定し得ない。が、由来我が国は語彙の乏しい国であつただけ朝鮮、中国、印度文明や近世から現代にかけては欧米文明などと互にその言語も盛に吸収し応用もしているが今なお豊富なリとは言えない。そこに連想を働かせたり同音異義語も相當に生まれ来つたり一因があると思われるが、此の同音異義の語を利用するフモールは兒童の寸話にも見え低調な駄洒落めいたものに墮し易い。初期の文学に含まれたフモールにはこの種のものが多し風土記の地名發生の由来や古今集の誹諧歌をはじめわが歌謡に多い掛詞や縁語の類も竹取物語のような作り物語にもこれを応用している。言うまでもなく言語は知的なものであるが古今集の誹諧歌や竹取の結核のフモールはやく知的傾向を持つてたとは言へ深い感情の裏付けが無いだけ表面的な浅薄なものたるを免かれない。崇高美や嚴肅美、純粹の美などを数えたかのカント派の哲学者や美学者達は滑稽美などを美の範疇にも入れないし価値の低いものにしてし

まったのであるがこの見解は必ずしも妥当とは言えない。滑稽美可笑味が高次の崇高美などと対蹠点にあるだけ若し崇高美に偉大なる美を見出すならば滑稽美は卑劣なるものゝ美ともとれる。そして滑稽美を顛倒された崇高美として美の範疇にまで引き上げようと「フモールの美学」なども生まれる機縁を形造るのであるが理論的哲學的科學的な考慮を深くめぐらさなかつた中古今にも誹諧の如きは一段低い地位に置かれその連歌なども、座興的に作られても読み捨てられたものが多い。幽玄とか有心と云つたような精神が歌論方面から澎湃と起つて景氣、余情、よせいなどの批判が歌合などに繰返されつ

な連歌が歌壇の重鎮などに取上げられるに及んでは極度の抑制が加えられる。又その抑制から逸脱して自由な精神でなぐさみを拡大しようとするこの対立が正連歌と俳諧連歌を生み柿本衆と栗本衆の別を生ずるのであるが、その解放されたと思う俳諧連歌にも放逸をくい止めようとする精神は格式を定めて見たり出發点から機智を求むべく俳諧を巻く季節と切字を賦何連歌と云つたようなクイズ式の命題との三頂点の上に発句を組立てもしたのである。



大阪市中島生々庵  
書き入れ時だすのに医者も風邪をひき  
昼寝ではなしベンチのくらし也

兵庫県 戸倉普天

松一本倒れて汽車が不通とか  
名門でお金が足らぬだけ淋し  
辞めさせる其あと釜でもめている  
目薬も置いてデスクの老社長  
トンネルを出れば北陸雪があり

大阪市 市場没食子

養子型とは見溢った御挨拶  
婆さんを雇ってまでも共稼ぎ  
売れ残り子まで作りに飽いている  
儲けたか店接間にも熱帯魚

西宮市 若本多久志

せつかな男やつたが早よう死に  
生き抜いてぬいて母の手荒れ給い  
メンテール外遊せぬは俺一人  
税務署のハガキふんとしもうとき  
惚れよってなあと社長の人間味  
昔昔スフの浴衣を着てたけど  
名調子金で貰うた名取りだが

三行で嫁し度し家がついており

ホノルル市 前山北海

アンクルサム税を戻すに利子をつけ  
山を動かす信念に支えられ

ホノルル市 内藤草一郎

失礼な眼にも恐れずモデル老い  
さしきわる小説モデルはないと書き  
道路拡張お蔭で客がグット減り  
自分より旦那好みの柄を撰り

東京都 宮田不二

商用のベタルサイクリングと擦違う  
純白な手袋もよしバスガイド  
煙草の火若い女性に所望され

ホノルル市 築山快夢起

グラランバにキスそのあとで口を拭き  
校庭で見たラブシーンを児が真似る  
猫までが二号のヒスに跳び上り

大阪市 須崎豆秋

金もないくせに委せとけ委せとけ  
こんにくで呑む通人へほとゝぎす

ホノルル市 羽佐間柳葉

母の日は亡母の佛追うばかり  
責任の軽き懸河の弁となり

大阪市 正本水客

富士が見え海が見えして松並木  
ゴムバンドはめたまゝなる妻の手よ  
安宿のまだこの辺は蚊が出てす

物好きな私でしょと会いに来る

父親の缺点ばかり見て育ち

信号無視天衣無縫の歩きよう

似顔屋に素面の顔を見詰められ

大阪市 丸尾潮花

逢うてからたった一日たっただけ

みをつくしうちには父も母もなし

ひと妻のおびえ通した手の温くみ

大阪市 北川春巢

学級閉鎖母の予定がみな狂い

尼さんの病気などせぬ顔で行く

おつとめを聞かれてビルの名で答え

岡山県 浜田久米雄

化粧品やたらに顔が酷使され

判をつくまでサラリーがたのしませ

はや夏の風物となる蚊張に風

出雲市 尼緑之助

路郎師の古稀を祝して

古稀いよ、柳はみどりにてつよき

螢狩り女は花も折って来る

酔って帰れば買った螢が二三匹

府中市 弘津柳慶

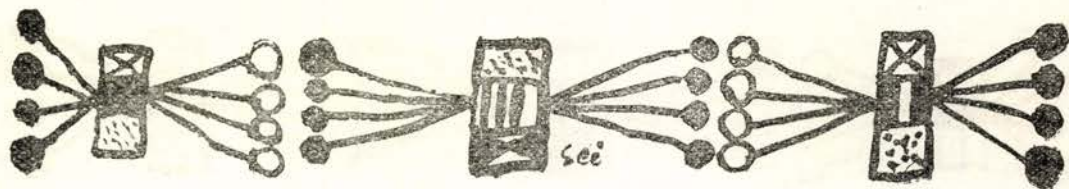
ビールの泡を末っ子飲みたがり

落付が出た酒席はめられる

堺市 吉田圭井堂

買った株面白程下って来

大人しゅうしている虫を何故たたく



夜もすがら考えていてこの暮し  
常盤津も少しは出来て養子なり  
つまずいてみれば四十にまだならず  
八等身だけが取柄の娘がのこり

広島市 国弘 半休

背信のそれから鏡怖く見え  
どっちも金利で食えぬ日掛けする  
酒の座の放談古稀でない若さ

兵庫県 小西 無鬼

彼も又下ッ端と云う袖カバ―

鈴蘭の空輪を受く

北海道の香り御近所へ配り  
養老院へ追いやりそうな子に育ち  
冷やかしヘト呆けとくほど嫁き遅れ

尼崎市 小林 文月

五月二十四日娘と孫ら中国より里帰り  
さしみ見てこれ何やねと食わぬ孫  
若夫婦値切った分でお茶を喫み  
四五分でかけるハガキを日々のばし

大阪市 富岡 淡舟

住友のバッジやさかいひっかゝり  
無口だが頼めば腰の軽い人  
長男に頼り夫は忘れがち  
脱税の手を知らなんだ店仕舞

山口県 長野 井蛙

聴かないことにして置くと課長逃げ  
零落れりゃあんだどなたかととぼけ

あげ底の大人の世界を見つめられ  
家内とも相談してとたよりなし  
俺の子でないと云わせぬ瓜二つ

呉市 林野 麴光

女ちとすねて果かなき抵抗か  
座ぶとんが一枚足らぬとこえ座し  
犬馴らす腕は家業のうちでなし

岡山県 直原 七面山

栄転の途上で哀れ横死をし  
ぼてが入って娘も三十五  
古稀祝う弟子のお世辞へ高笑い  
ビニールの袋の中で金魚あわてず  
請求をされて務めのキッスをし  
夫婦相和してどちらも箱師

残業にねそべる裸婦のカレンダー  
俄か雨銅像だけが馳け出さず

大阪市 西森 花村

いっせいに見舞追い出す婦人科医  
箱がつくからアメリカへ行けという  
水虫のくすり新聞社も儲け

岡山県 福島 鉄児

借りに來られて体温計が見当らず  
水に写って見れば我家も美しく

岡山市 服部 十九平

よその子の長所へ夫婦妬けている

大分県 桑原 養痴園

會長を買っていら〜更年期  
妓嫌いになってそれからボクと逝き  
遺産税そればかりのノイローゼ  
前医をけなすのへちくと痛い目を

熊本県 有働 芳仙

魔がさしたんやと女を棄てさす気  
千円の香水つける顔でなし

下関市 石川 侃流洞

印押して役所の寸志もろて来た  
泣事が上手案外ためている  
催促をちよつぱり二伸の方へ書き  
風邪引かぬ子が休校をうれしがり

広島県 山田 季賛

大雨予報ハゲ山が気をもませ  
商魂は造花つづくに取替える

大阪市 山本 葉光

轢かれかけ盗まれ都会にまだこりず  
庶務の娘と小使さんとが仲がよく  
先妻の供養忘れずかしづかれ  
生前の浮気をすっぱ抜くマダム

倉敷市 木村 千容

初夏の感觸油断のならぬ女の子  
当然のように消防寄附集め  
筋はすじ甘えましたは馬鹿ばかり  
了解はしたがいや味を一つ云い  
水鉄砲戦果をあげたうちの孫  
石嚙んでゆうべの不貞少し悔い



名器鑑引用もしてお正席

倉敷市 田垣方大

身の上は聞いたがどうもして呉れず

石川県 那谷光郎

市場籠うちではねえーと立ち話

頓死して妾宅のあった事が知れ  
旅だから妻も同じものを食べ

石川県 野村味平

山中の湯女湯女なりの世辞にだけ

十二文の素足で通す寺男

大阪府 木村水堂

先代の恩を忘れた口を利き

泣かされて来た子へ家の中が揉め

水枕甘えた声で妻を呼び

倉敷市 水谷谷水

世話好きも根負けする程見合をし

おばあさん婿はめるのを仕事にし

玉の輿今日も家風にしばられて

火遊びで出来た子貰い見せに来る

芸術か知らぬが妻君ばかり画き

娘の婿をとるとはいくら淋しくも

へされけでも教頭硬いこと硬いこと

そんなひとありませんわと飲みほして

ストをするだけの才能とは淋し

できた人だったか二号も後家を立て

倉敷市 梶原一善

恋は曲者うちの娘も嘘を云う

簡単に無理の通るのも淋し

岡山県 田村藤波

社長まだ養子へ秘密打明けず

あとがまへ噂の女早や来とり

岡山県 岡田夜潮

日高にも骨がありけりあなどれず

一日に噂抜がる村怖し

睡いのに早や年寄が起きて咳き

刑務所の驛人間の香を入れず

臨月が盟を股にはさみこみ

岡山県 本田恵二朗

落第が出世頭と云う皮肉

大阪府 真鍋一瓢

毒食わば皿で買わせた単帯

子沢山らしゅう粗末に連れ歩き

女とはよいもの非力自慢にし

ちと足らず赤いドレスがよく似合い

京都府 松川杜的

逆ろうて見たい看護の日々もあり

ナイターへ行こかと女将誘いに来

ビニールが丁度よかった奈良の雨

旅悲し煙の果つる果てを見て

大阪府 後藤梅志

観ていると頭が空らになるテレビ

女房へだけは不思議に気が張らず

ワニの子というけてものを誰が購う

倉敷市 藤井春日

市議さんもやっぱりお金に困ったり

パチンコで会った女給にたかられる

蛸壺へ草月流が足を止め

姫鏡台とコケンばかりの女給部屋

米子市 小西雄

映画「明治天皇と日露大戦争」

老人の涙を不思議がるドライ

婦人科医夫の気まゝ聞かされる

堺市 高崎雄声

生活上もう番傘が見当らず

お人好し一番悪い傘をさし

指図するだけの仕事になりたがり

永らく苦労かけたなどとセンチめき

島根県 藤井明朗

ネクタイの好み新婚から変り

未っ子に釣誘われる日曜日

岡山県 永松東岸子

長火鉢子のない夫婦だけで更け

棚晒しされてる様な停年期

五十まで着られそうよとは哀れ

月給の少ない順に酔うて来た

倉敷市 野田素身郎

乳臭いダンサーおじさま族が好き

恩を仇で返すようだがついてけず

聞いてやるだけしか出来ぬ今の僕

大阪府 清水望峰

大阪府 清水望峰



近眼の車掌疑うように見る  
われと来て遊べ財布に金入れて  
髪ばさり我れハンサムと云うかたち

大阪府 川端 鬼 醉

愛人が出来てる白髪染もして

大阪府 木村 十 悟

御人好し先棒ばかりかつがされ  
仕事手に就かずテレビも悔多し  
仲居さんゴム靴はいて居る場末  
スナッブに俺のボカンとしての顔

大阪府 伊達 塚 子

フロートを押してる顔へも紙吹雪  
なつかしい宿泊二田の旅日記

大阪府 不二田 一三夫

テレビいま黒星七つ同士なり  
割箸のような脛さえかじりに来  
靴みがき自分は靴を持っとらず

兵庫県 酒井 ひか 平

妻わつと泣いてるとこへお客さま  
三ツ四ツ蝶が飛んでる草野球  
置手紙女房の会が多過ぎる  
五球買えたら近所はもうテレビ

名古屋市長 尾越 鳥

手を合す神の神が枯れていた

神戸市 野村 初 甫

新妻の主人と云うを云いそびれ  
初めから三本立へ居眠りし

臨月へどうにかしたい二階借り

明治天皇と日露大戦争を見て

シネスコの中が足りない日本海

大阪府 金井 文 秋

只読みのコツも覚える十二三

お宅のは出来ますPTAの寄附

皿を見るだけの二次会だが逃げず  
ボマードの頭でのれんすって出る

岡山県 戸田 喜 楽

美容体操してると夫人鼻にかけ

病夫より仕事の方を大事がり  
新妻の笠が目立って居る田植

唐津市 新岡 回 天子

何やかや理屈をつけて役不足

逢引の電話も近所継がされる

岡山県 池田 古 心

自慢する手早さ仕事粗雑にて

やん付けで呼ばれチョビ髭など生やし

東京都 石居 高 志

新婚が欠席してるクラス会

君恋えば今日も会いたい灯がともり  
五月二十一日長女退院

退院日夜来の雨もはれてくれ

大阪府 早川 清 生

都会人やたらに海の色をほめ

鶯の滅った茶店の娘も嘆じ  
愛してもいぬに貞女の鑑にし

後妻貰うのにまだ処女でっしやるな

素人へ鳴ってやるかとサキソホン

社に我が娘訪えば追い返されるよう

妻のあと歩けばサロンパス匂う

ポケットの中を後妻の気にかけて

賢夫人爪を噛む子に育て上げ

屑屋始める前に嫁たのかと聞かれ  
いつからか働く母の吸う煙草  
あどけない顔して禿けたのと泊り

大作の裸婦の画五人してかつぎ

メートル法これでは酒の味がせず

大便の見本を医者だから並べ

小松市 伊藤 茶 仏

よく笑う女に毒気抜かれとり

娘すら大の字に寝る世に寝り

デパートの個展すげなく見て帰り

堺市 辻 圭 水

左遷の辞令も頭を下げて受け

麻雀の疲れでおした盲判

メモしたと思ひ出せない程多忙

石川県 中松 恒 雄

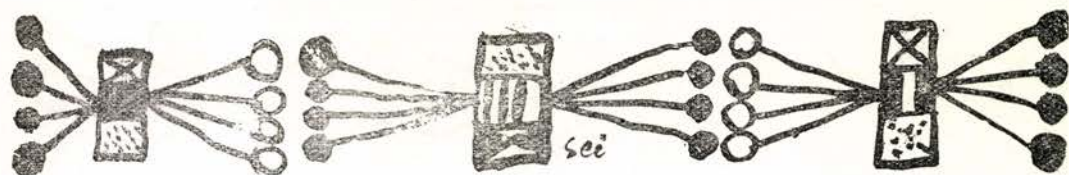
演技だけでスタアになれぬ女優部屋

世の中の矛盾貧乏して分り

炎天を一本道の遙かなり

滋賀県 中島 可 十

職さがす身にまだ月賦つきまとい  
はかどらぬ恋貸ポート屋もあきれ



鶏売ってから女房の朝寝癖

神戸市 小浜 牧人

先生の古稀を御祝して

詩魂あり酒あり老いをまだ知らず  
仏より牡丹の客でバスが混み  
ボーナス期また型録をおいて行き  
毒舌の和尚背広の日が続き

天理市 菱田 満秋

素顔しか知らない病めるもの同志

甲斐性がないから妻を大事にし  
回診の医者にクイズの智慧を借り

岡山県 池上 知恵美

大学は出ても甘えた子に育ち  
仕合せなりズムを乗せた娘のミシン

大阪市 橋高 薫風子

恋たのし切符も二枚買うて待ち  
降って来たから止めようと云う年になり  
こゝで又税吏女将にとほけられ

下関市 中村 九呂平

飛行機が嫌いで特注また逃し  
次々と死ぬから俺が長老さ

山口県 多田 ほなみ

老眼鏡あるで会社へまだ勤め  
望郷も一しは枇杷の熟れた色  
やり直しもきかず五十へあぐらくみ

奈良市 宮口 笛生

今頃に競輪損とわかつたり

米子市 石坂 新雪

一年も映画を見ない連れも居り  
禿げかかり記念写真も嫌になり

倉敷市 藤井 五茶

にぎり飯ふと童心に返る僕  
放送塔胡瓜百匁の値もどなり  
雑魚は雑魚どうしでうれし屋台の灯

大阪市 西川 晃

詩人とは傘をささずに行く人か  
通訳の様に母さん説明し  
兄ちゃんと呼ばれる恋のもどかしく

鳥取県 田中 蛙眠子

メッセージ代読知事の声を真似  
性白書短か夜の月もう落ちる

名古屋 市野 田 一念

ブライドが愛していますとも云えず  
男振りよりも気前に惚れたとき  
溜息で文化住宅見て歩き

## 同舟近詠

松山市 前田 伍健

職場大会たばこの量がみんな殖え  
顔すらり理屈は云うが金はなし  
生活を見せるかゴルフ道具おき  
うつぶんを河童に云わせてる漫画

長野県 高峯 柳児

炬を囲み霜の予報へしんとなり

儲らぬ市況罫線飽きて居る  
月給に力士の生活覗かれる

和歌山市 秋月 宏方

じゝむさし年寄り守する姿  
貫禄があるともいえす十二貫  
テレビアンテナ立てゝドライなお寺はん

大阪市 石田 沐天

太陽の季節今年はどうする気  
こいさんも乳母も船場で萎びてゐる  
現代の船場に小さく暖簾かけ

今治市 長野 文庫

うすのろも険しい席で役に立ち  
茶席から帰り図太い歩きかた  
飲まぬ訳残る寿命が惜しいらし  
さし障りあつて結局いろは順

今治市 月原 宵明

来客のお残り秘書課お茶をいれ  
夜の女素顔になりて貯金をし  
この頃の娘は女湯であきれさせ  
近いうちめしを食べよと政治的

## 新児童ヴァイオリン・サークル

講師 麻生 アート

奈良県生駒市本町二丁目一〇三番地  
生駒 教室

TEL 306 バン

西宮市仁川町五丁目七番地

くるみ幼稚園

TEL 638 バン甲

★教室新設については新児童ヴァイオリン・サークル生駒教室へ御相談下さい



# 與杖記

古稀の路郎先生へ

東野 大八

フランスの諺に「ステッキは力の拡大なり」というのがある。若いころには、ヒモのついた木刀やサクラのステッキを肩に担いでカッポしたものである。その見本は「金色夜叉」の荒尾護介あたりにとゞめをさす。書生つぼの荒々しさは、そうしたステッキの誇示に若さが溢れていた。

と

ところが、こうした時期が過ぎると、ステッキは、富と権力の象徴の様になった。若いころ、私の勤めていた雑誌社の社長は、チャップリンの持っていた様な竹のステッキを、霜降りのオーバーの腕にひっかけ、よくいせに肩をゆすつてカッポに私をつれていったものである。いさゝかキザだが、どうやら金持ちに見えた。そんなカッポで顔を合せる社長仲間の、不良老年たちが、細身か太身か、とにかく金のかゝつたステッキを一樣に持っていたのも、妙な因縁だった。ところは大陸なので、そのころの日本人には、一等国の権威と面目にかけても、ステ

ッキの必要性があつたものと思われる。

「柔道家はステッキを持たないものだ」

とイバっていた重工業関係の重役さん。もいたが、関東軍の支隊に、にぎりの大きいステッキを持っていくと、すぐ第四課へ通して欲しいというエンギもあつた。どうやらそれは、右翼の愛国主義のシンボルと同断だった様だ。

しかし、終戦後の北京で、これを持つていけると逆にぶんなぐられた。富と権力と力の拡大としてのステッキが、効力を失墜して、逆に小面憎く映つたものらしい。最も中国では、ハイカラな歐洲婦りのイナセぶりを誇る教授を除いては、ほとんどがステッキを持たなかつた様だ。ステッキでなければそれは杖であつた。

東洋では、杖を持つことは、一種の人間資格を伴つていた様だ。つまり敬老の儒者風な解釈で「礼記」というのに拠ると、つぎの様

に書いてある。

「五十家に杖し、六十郷に杖し、七十国に杖し、八十朝に杖し、九十におよばは天子所問のことあれば、親しく老者の家に行つて訊くべし」

わが国でも八十の賀には、むかし朝廷から杖を賜つたとある。このことについてだが、私の家にさきごろまで健在だった八十幾つのおばあさんが、敬老会に招かれて、小さいお湯呑一つを頂いてきた。そこで私は、その主催者のある人に、あんな湯呑より杖でも贈つたらどうなんだ、といったが、あんな湯呑も予算かつかつてしてとても杖などは……というので、まさか朱旦の杖を作れとは言わん、カシの小枝に一寸手を加えれば造作はないのに、といったことだ

たが、公会堂の備付湯呑や、御仏前のお茶入れみたいのは、いくら予算の都合でも、まともにお茶の味もしないだろう。

その敬老会にきていたある坊さんは、私のこんな話に、禪家には杖杖というものがある。これは本場の印では、仏門への路が峻しいため、おしやか様が老者に杖を許し給うたが、その名残りが杖杖だと説明してくれた。そしてさらに、この杖を烏藤ともいって、色が黒いが、材料は藤の木で作られる。藤の木はしなしなしして

て、減多なことには折れることがないからである。

北京に居たとき、西城のある院子で、ハトの形をにぎりに彫つた老人に行き合つたが、話によると老人は、のどか狭くて、食物の通りが悪い。そこでど穴の大きいハトを縁起につけたのだときかされた。

北京といえば中国では藜の杖を老人が用いたとある。この木は、夜光樹で、夜な夜な杖から光りを発するので、これを灯火にして書を読んだという話があるそうである。螢雪には季節の制約があるがこんな杖ならその点不自由がなくてよい。貧家のアルバイト学生には好適と申すべきだろう。

満洲で、石原莞爾氏が、杖低きほど人間は童心に還るもんだ、と話されたことがあるが、その杖の哀れは、低きを加えることに、深刻の形を増していくのではなからうか。戦時中の軍歌に「杖を頼り一日がかり、母がなんとこで九段坂」というのがあつたが、この一日がかりに私は、よく陣中ホロリとする憾慨に、故郷を想つたことであつた。

このごろ、少し仕事をして肩を上げると背骨が傷む。文筆渡世のわが身だから、かゝみ込んでものを書くことが多いので、自然背骨にしなりがきて、そのまゝ固まつていく様な気がする。この点、外人連中は、背中をしゃんと立て、いる年寄が多い。なぜ日本人は前かゝみになり、外人は後へそくく返つていくのだろうかと思えてみたら、こちらが畳で向うはイス、ソファのたぐいだからとごく常識的に思いおよんだ。しかし私にはもう遅い。第一坐りつけぬソファで、ゆっくりしていても、後で首の根っこがだるくなる。まだ若いうせに何を言つとるか、と路郎先生あたりから一笑に付されそうだが、さりとて杖はつけないのである。先日モリ傘を天気の日に持歩いて往生した。揺れるバスの中で片手にモリでは金が出せないものである。よんどころなく和服の帯の間へ、やくざの一本刀よろしく、そのモリを落しぎしにして用を足した。こんな具合では酒の好きな私が、中氣にでもなつたらどういふことになるか、それと思うとあまりいゝ氣持はしない。大谷刑部が、荒神山からの仁吉の戻りみために、万事戸板の上ということになりそう。路郎先生が、杖をつかれていないのは、この点、われわれにも頼母しいがこれは老中の與杖が永遠の心の若さに置かれてゐるからだろう。



## 新川柳鑑賞

麻生路郎

〔四二七〕

お女将さんがうるさいのよと断られ  
(多久志)

「どっか、温泉へでも行こうじゃアないか」と、誘いをかけて見たのであろう。それは婉曲なくどきでもある。ところが女の言葉は「お女将さんがうるさいのよ」であった。アッサリとことわられたのである。酔客と仲居との心の動きを巧みに描出している。話し言葉ズバリの穿ちの句である。

〔四二八〕

見送りの時間をきいて遂に  
来ず  
(栗)

この句の場合人物は不明である。それは人物を問題としていないからである。見送りの時間は聞いたが、はじめか

ら見送るつもりで時間を聞いたのではない。それは一つの挨拶にすぎないのであった。こちらも見送ってくれることに少しも期待を持っていないのである。都会生活をしていると斯うしたことによくぶつかる。そこをうまくキャッチしたのがこの句である。

〔四二九〕

腕時計動かなくてもいいの  
んよ  
(豆 秋)

若い女性はアクセサリを愛する。虫と称する小さな腕時計となると又しても動かなくなる。動かなくても腕時計があると言う意識だけで充分満足が買えるのである。それは時間を知るための時計ではなくて、装飾としての時計であるからである。若い女性の心理をハッキリと掴んだ

## 柳界

## 展望

句会

▼本社川柳納涼句会は八月七日午後六時から清涼の気あふれる下寺町二丁目バス停前光明寺で開催される。万障繰合せて出席されたい▼南区医師会文化部杏林川柳会(大阪市)は七月廿三日午後七時半から生々庵居で開催▼南海電鉄川柳会は七月廿九日午後六時半から粉浜の親和寮で開催▼大阪通信病院川柳会は八月二十日午後二時から新館五階会議室で開催▼堺市立図書館川柳会一周年記念川柳大会は六月二十五日午後六時から同館階上で開催。以上何れも路郎主幹出席▼川雑淀川支部八月句会は十二日午後六時から東淀川郵便局で開催。兼題「退院」「風寝」「俄か雨」▼恒例の堺魚夜市川柳大会は七月三十一日午後八時から堺市英彰小学校で開催。終了後参加者は魚夜市特別席へ入場▼大阪市交通局川柳会の川柳職場めぐり句会は七月十七日午後四時から都島運輸仮泊所で開催▼川雑岡山支部川柳まつりは七月六日午後一時から岡山市第五鉄道寮大広間で開催▼鯨はこグループ(名古屋市)第七回川柳句会は六月四日午後一時から一念寺で開催▼竹原川柳会(広島県)は六月二十五日同会事務所で開催▼3・3・3川柳会(堺市)句会は七月十日午後六時から堺市島野工業株式会

社会議室で開催▼岸和田川柳会は七月十一日午後六時から蟬地蔵蔵前九二食堂で開催▼川雑高知支部川雑川柳まつりは七月十四日迷窓居で開催▼川雑倉敷支部では七月七日「川雑川柳まつり」句会を開催▼北国新聞社(金沢市)では「北国柳壇」の選者麻生路郎先生を迎え九月八日正午から同社講堂に於て北国川柳大会を開催される(別稿広告参照)▼川雑備前支部では七月十三日「川雑川柳まつり」を久米雄居で開いた▼第三回長岡市民川柳大会が村田周魚氏を迎えて九月十五日午前九時から長岡市悠久山、悠久山ホテルで開催される▼川雑下関支部句会は七月十四日下関駅で開催

### 消息

▼橋本緑雨氏(大阪市)は七月一日社団法人大阪市電交助会理事に再選された▼吉田機司氏は七月二十五日午前八時NHK第一放送趣味の手帖の時間に医者を読んだ古川柳について話された▼大西透窓氏(高知市)からの通信によれば須藤後江さんが七月十四日の句会の日には手術しなければならぬと一目で判るほど青い顔をして迷窓氏宅を訪れ一時休んで居られたが次から次と柳人が来るので一緒に会場へ出席、席題も上位に抜けたのでその川柳樹に感激させられた由▼三条東洋樹氏(神戸市)は路郎先生の高橋祝賀川柳大会当日は先約の岡山県山陽高等学校へ川

## 胃潰瘍を内服でなおす

潰瘍の創面に直接働いてニッジェに肉芽を盛り新しい粘膜を新生させ且つ副作用は全然なく胃痛を迅速に和らげます。一回四錠ずつ一日三〜六回使用致します。

メサフイリン

錠 一〇〇錠 五〇錠

七〇〇円 三八〇円

エーザイ株式会社

句である。

#### 〔四三〇〕

女体壯嚴いつしんに子を洗

い

(東洋樹)

ヌードの句で、こんなに厳

肅な句を知らない。そこには

猥雑な感じをさしはさむ余地

が少しもない。それはヌード

そのものを詠んだと云うより

も、母性愛の極度の表現だか

らである。磨きのかかったレ

ベルの高い作品として推奨し

たい。

#### 〔四三一〕

こぼれては咲きこぼれては

咲き朝顔の

(梅志)

朝顔はなんとなく儚ない感

じのする花である。咲いたか

と思うと、すぐにしぼんでし

もう。この句からどっかに凡

人の生を思わせられる。表現

技巧の妙味がこの句を生かし

ている。

#### 〔四三二〕

インテリの無力を知つた大

掃除

(雅堂)

大掃除にスタイルだけは一

人前だが、さて箆笥運び出

すとなるとヒョロつく。畳も

手伝ってもらわないと運べな

い。つく／＼とインテリの無

力を知つたのである。大掃

除の日に「映画でも見に行っ

ていらつしやい」と追いつき

れてホッといきをつくのがこ

種のインテリである。

#### 〔四三三〕

釜ヶ崎に住んで

今さつき出て来たんやと丸

刈りの

(晃)

釜ヶ崎はスラム街である。

ボリスもここでは威力がない

と云われている。「今さつき

出て来たんやと」は云うまで

もなく、刑務所から出て来た

のである。いつ散髪をしたの

か判らない人たちにまじって

丸刈りが光るのもそれがため

である。観察はなかなか鋭

い。

#### 〔四三四〕

初孫がチンポコ摘んで寫つ

とり

(麦太楼)

孫は目に入れても痛くない

と云われる。日に日にのびて

ゆく姿をカメラにおさめる。

その中には、この句のように

裸でチンポコをつまんでるの

もある。それは自然の姿であ

ると同時に愛撫の象徴でもあ

る。チンポコを詠んでも少し

も不潔な感じがしないのはそ

れがためである。

十号となるので編輯に忙殺されて

いられると▼大野風柳氏(新津

市)からの通信によると九月の北

国川柳大会に新潟からも何んとか

して出掛けたいと思つてゐるとの

こと、万障繰合せて出席されたい

▼須崎豆秋氏(大坂市)は九月八

日が誕生日に相当するので、その

日を記念するため同日に金沢で開

催する北国川柳大会へ出席すると

のこと▼牟田一哲医博(大坂市)

は牟田病院で耳鼻咽喉に関する学

術集談会を開始以来二十七年にな

り、昨秋二〇〇回講演会を開催さ

れたが、最近二〇〇回記念号が刊

行された。蠅田医博の「日本人の

音感覚」其他がある。牟田一哲医

博は日本で唯一の個人講堂を持つ

ていられ、長柄橋に住んでいられ

るので長柄大学の総長と呼ばれる

ほどの篤学の士である。句会でも

必ず顔を見せられている熱心さで

ある▲米本儀之助氏(大坂府)は

古稀祝賀大会に出席されたが七月

十四日に路郎先生夫妻を自邸にお

迎えして終日歓談された。氏は故

米本貴志子さんの良人である▼後

藤蝶五郎氏(黒石市)のおたより

では青森県は二十数日雨が降らず

植え終ったばかりの田に亀裂が生

じているところもあるとのこと、

こちらでは雨ばかり降りつゞけて

水が出て弱っているところもある

が、昔から天候ばかりはどうにも

ならないらしい▼松村万古氏は五

月廿三日倉敷中央病院を退院して

同廿七日から倉敷市天城教員研修

所へ入所された。

#### 句集・柳結

▼川維高知支部句集は七月十四日

発行、句集参加四十四名。路郎師

は依頼に応じ序文を寄せられたが

郵便局の手落から十余日遅達され

句集刊行に間に合わなかったので

別刷の上句集にはさむことになつ

たと▼紅川柳会創立二周年記念会

員自選句集「紅」が京都市左京区

松ヶ崎、全通京都地方簡易保険局

から刊行された▼故坂澄風氏のあ

とを襲うて「さつき」の主幹とな

られた堀口塊人氏は同誌主幹を辞

し、七月一日に川柳さつき改め

「川柳文学」を刊行された。発行

所は大坂市大淀区豊崎東通一ノ四

川柳文学。その後に「川柳さつ

き」が同人会長中岡三吉氏の手で

旧発行所から統刊され矢張り七月

号なので「川柳文学」は今のところ

の明らからでない。両誌の善処をの

ぞむ。

土地名変更

▼野呂湖島氏の住所の土地名が下

記のように変更になった。西宮市

鳴尾町四丁目五番

地

改号

▼下村梵氏(新潟

市)は梵公と改号

された。

飛燕・往・来

▼尾崎方正医博

(パリ)より

セーヌ河昔の水でないのなり

外観は古ぼけているソルボンヌ

地下鉄で見歩くパリーと淋し

グエルサイエ矢張り来てよかつ

たと思

ループルで脚を棒にして帰り

フルスケデニールで作句の暇が

なく困つて居ります。

▼尾崎方正医博(フランクフルト)

より

ベルリンで叱られました其の火

出先では前大臣もごつちやなり

異つた宿へ異国で連込まれ

日本の眼ラインの流れきたり

汽車の窓異国向いに教えられ

フランクフルトで雨故国を思出し

ローライ何の変哲もない小山

友人(名大教授)と一緒に旅し

て居りますので仲々作句出来ませ

ん。来る二十二日当地発スイス、

ローマを経て八月初旬帰国致しま

す。(七月十九日)

杜の黒板

▼川維名古屋支部を七月廿一日に

名古屋市中村区岩塚町西校の一

〇三二に新設した。支部幹事は長

尾越島氏。

賞めて親類にも送り

大 阪・心 斎 橋

電 話 (75) 九〇八四番

三 四 八 四 番

松前屋昆布

一 路 郎 宛

# 川柳家の二十四時

諸大寮の真夜中の夢から、晩酌の饅子の数や食卓の皿の中まで覗かせて頂いた。諸先生の生活断片史として後世これが貴重な文獻となるかも知れない。  
一編生局

(15)

青森県 後藤 蝶五郎

★一時——グッスリ眠っています  
★九時——女房に話す事あり

★十二時——ラジオ聴きながら屋食、リンゴ絞汁約一合。  
★十三時——煙草も喫わず、

★十七時——老詩人 自分の影を見うしない  
★十八時——約束もなく、夜更しもせず。  
★十九時——これで万事うまく行っているらしい。  
★二十時——うるさいと思わず、  
★二十一時——どんな事があっても眠る。  
★二十二時——  
★二十三時——  
★二十四時——

妻の苦勞に 甘んずる。



★三時——  
★四時——  
★五時——床の中でラジオを聞いています。  
★六時——起床、用便、入浴三十分（黒石温泉郷で静養、六月中旬帰宅）

言いそびれ

★七時——牛乳一合、米食、鶏卵一個、野菜、番茶の濃いもの。

★十時——映画（邦画）月二回位招待券で。他は作句。

★八時——常葉ハセルチンC錠、

★十一時——選句、運動のため土

メルチオB12錠、各一錠。

に親しむ。

★十四時——入浴一時間、石鹸使わず。  
★十五時——昼寝。  
★十六時——夕食、流動物、動物質のものは好まず、酒も駄目。

福岡市 速水眞珠洞

★一時——四時——私達老夫婦は大抵前夜十一時前に就寝します。たつた二人きりの淋しい生活で旧宅の広かった生活から、戦災後の草原に建てられたアパートの県営住宅の二間ですが、階下は私の経営する繊維の間屋業に終日忙しく、只寝るだけが息のつける所です。それでも文化関係の郷土歴史研究会や、博多演劇くらぶの仕事が、社用以外に  
のしかかつて来るので、夜に入ると面接に疲労させられています。夜、夕食後は風呂に入って何もしない事にきめております。  
★五時——七時——窓口はのぼりと明け染める。暁色の光をちよつと見ただけで又眠りに入っています。  
★八時——九時——昨今は大抵八時から九時の間に起床。炊事

本格の品質




アサヒビール



川柳会は私方によく会合したが  
老婆は何等の不平もなく、川柳

会、ことにお茶の方の役を一人で  
つとめて努力したものだといつ

も感心しております。呵々

★二十時——二十一時 この辺あ

たりからやつと自分の身体にな

るのです。最近読書するタイ

ムも少なくな。只新聞が大

朝、大毎、西日本、夕刊フクニ

チ、新九州と来ているから、こ

れを一応目を通す。又映画や演

劇をも暇を利用して見物に出か

ける。

★二十二時——二十四時 床を十

時半頃のべてラジオのスイッチ

を入れて、いよいよ熟睡する枕

頭のスイッチを切る。私の聞く

物と妻の聞きたいものが合わな

いのでよく枕に頭をのせたまま

喧嘩をやるがいつの間にか眠り

に落ちてしまう。

て散歩三十分。

★六時——ハミガキ、石鹸の名は

知りません。まあ、なんでも手

当りバツタリ。

★七時——お茶をのみながら朝刊

の拾い読み、朝食は御飯二杯。

★八時——東京の病院の日は八時

市川の病院の日は八時半家を出

ます。

★九時——外来患者の診察。

★十時——同

★十一時——同

★十二時——風食は摂りません。

★十三時——十四時 毎週火曜日

は、県庁に行つて公安委員会、

その他の日は入院患者の廻診、

その他の雑用。

★十五時——おやつはとりません

★十六時——

★十七時——自宅に帰つて、川柳

の選や雑文書き。

★十八時——夕食には一本つきま

す。

★十九時——

★二十時——

★二十一時——

★二十二時——

★二十三時——

★二十四時——

(まあ、右のような日課だと女

房子供は喜び、そして安心なん

ですが、どうも、そうは参りま

せん。その点では、いつも家内

の者たちに済まないと思つてお

る次第です)

場で洗面して二つの部屋を掃き  
出したり、白湯をわかし火を起  
して火鉢に移したり、御神燈の  
前に御茶を献じたり、昔の風習  
に朝は型の如く勤くのみ。

★十時——店で働きます。仕入先

が詰めかける、売捌き先の来客

にも一々応接の言葉をかけます

★十一時——十一時半には私の

社長室に戻つて休息します。

★十二時——十三時 風食は簡単

です。牛乳二本にパン位のもの

で極めて少食で、勿論尾から御

酒なんか元来下戸の私には禁物

ですし、仕事も従つて出来なく

なります。ラジオも夜になるま

でかけません。然し野球の放送

は別として。

# 吉田 機 司

★一時——

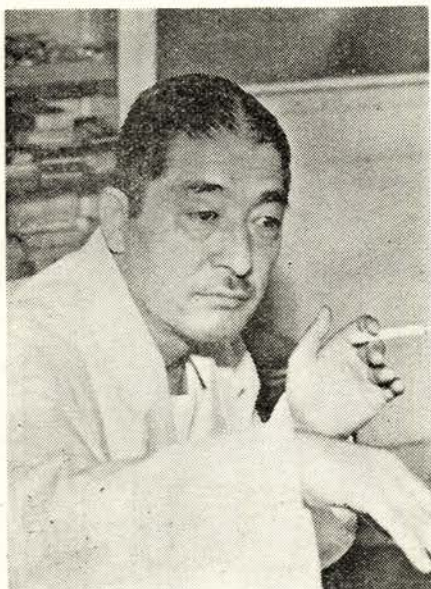
★二時——

★三時——

★四時——

★五時——犬に起されて起床、忠

犬ならざる飼犬「ハチ」をつれ





[illegible]

|   |                                |     |
|---|--------------------------------|-----|
| 同 | 顔ぶれへその曲つたのも混り                  |     |
| 同 | 警笛も輝くばかり新車出る                   | 大阪市 |
| 同 | 四人ともガムを噛んでる少女達                 |     |
| 同 | しんなりと女のカサが倒れて来                 |     |
| 同 | 学者タイプねと云われて淋しがり                |     |
| 同 | デパートの売娘月給顔へぬり                  | 鳥取県 |
| 同 | 背広着てみてもやっぱり手鼻かみ                |     |
| 同 | 麦の穂を拾う頭上で三味の音                  |     |
| 同 | 東京の嫁に長男取られたり                   |     |
| 同 | 宿題が父の威厳では出来ず                   | 岡山市 |
| 同 | 生きていて呉れとは恩給があり                 |     |
| 同 | メニユーにはない素 <sup>さん</sup> 妻は好き   |     |
| 同 | あの顔で煮ても焼いても食えぬ <sup>さん</sup>   |     |
| 同 | ボーナス日娘がスカートを <sup>さん</sup> 買うれ | 岡山市 |
| 同 | スクターに乗せて貰うて肩が凝り                |     |
| 同 | 神武以来の景気へ夜なべ追つ <sup>けず</sup>    |     |
| 同 | ボーナスが出たらやたらに休暇 <sup>さん</sup>   |     |
| 同 | 破産寸前見なれぬ顔が出入する                 | 西宮市 |
| 同 | 長男に追われて後をよう生ます                 |     |
| 同 | 減水の水車に似たる暮しむき                  |     |
| 同 | 生い立ちを隠せぬ足の坐りダコ                 |     |
| 同 | 五重丸母に拜ますランドセル                  | 大阪市 |
| 同 | 洗濯機掴めば追うて来るテレビ                 |     |
| 同 | 静かなる抵抗震すにシャンと待ち                |     |
| 同 | 土産屋は予算も聞いて選つてくれ                |     |
| 同 | 御多忙のうちにゴルフも教えられ                | 岡山県 |
| 同 | 敏腕の助役が背の灸を見せ                   |     |
| 同 | 考えておく履歴書のかさを見せ                 |     |
| 同 | 娘の手紙眼鏡拭いてもばやけて来                |     |
| 同 | またしても桜々の琴の弟子                   | 西宮市 |
| 同 | 顔ぶれへその曲つたのも混り                  |     |
| 同 | 警笛も輝くばかり新車出る                   | 大阪市 |
| 同 | 四人ともガムを噛んでる少女達                 |     |
| 同 | しんなりと女のカサが倒れて来                 |     |
| 同 | 学者タイプねと云われて淋しがり                |     |
| 同 | デパートの売娘月給顔へぬり                  | 鳥取県 |
| 同 | 背広着てみてもやっぱり手鼻かみ                |     |
| 同 | 麦の穂を拾う頭上で三味の音                  |     |
| 同 | 東京の嫁に長男取られたり                   |     |
| 同 | 宿題が父の威厳では出来ず                   | 岡山市 |
| 同 | 生きていて呉れとは恩給があり                 |     |
| 同 | メニユーにはない素 <sup>さん</sup> 妻は好き   |     |
| 同 | あの顔で煮ても焼いても食えぬ <sup>さん</sup>   |     |
| 同 | ボーナス日娘がスカートを <sup>さん</sup> 買うれ | 岡山市 |
| 同 | スクターに乗せて貰うて肩が凝り                |     |
| 同 | 神武以来の景気へ夜なべ追つ <sup>けず</sup>    |     |
| 同 | ボーナスが出たらやたらに休暇 <sup>さん</sup>   |     |
| 同 | 破産寸前見なれぬ顔が出入する                 | 西宮市 |
| 同 | 長男に追われて後をよう生ます                 |     |
| 同 | 減水の水車に似たる暮しむき                  |     |
| 同 | 生い立ちを隠せぬ足の坐りダコ                 |     |
| 同 | 五重丸母に拜ますランドセル                  | 大阪市 |
| 同 | 洗濯機掴めば追うて来るテレビ                 |     |
| 同 | 静かなる抵抗震すにシャンと待ち                |     |
| 同 | 土産屋は予算も聞いて選つてくれ                |     |
| 同 | 御多忙のうちにゴルフも教えられ                | 岡山県 |
| 同 | 敏腕の助役が背の灸を見せ                   |     |
| 同 | 考えておく履歴書のかさを見せ                 |     |
| 同 | 娘の手紙眼鏡拭いてもばやけて来                |     |
| 同 | またしても桜々の琴の弟子                   | 西宮市 |
| 同 | 顔ぶれへその曲つたのも混り                  |     |
| 同 | 警笛も輝くばかり新車出る                   | 大阪市 |
| 同 | 四人ともガムを噛んでる少女達                 |     |
| 同 | しんなりと女のカサが倒れて来                 |     |
| 同 | 学者タイプねと云われて淋しがり                |     |
| 同 | デパートの売娘月給顔へぬり                  | 鳥取県 |
| 同 | 背広着てみてもやっぱり手鼻かみ                |     |
| 同 | 麦の穂を拾う頭上で三味の音                  |     |
| 同 | 東京の嫁に長男取られたり                   |     |
| 同 | 宿題が父の威厳では出来ず                   | 岡山市 |
| 同 | 生きていて呉れとは恩給があり                 |     |
| 同 | メニユーにはない素 <sup>さん</sup> 妻は好き   |     |
| 同 | あの顔で煮ても焼いても食えぬ <sup>さん</sup>   |     |
| 同 | ボーナス日娘がスカートを <sup>さん</sup> 買うれ | 岡山市 |
| 同 | スクターに乗せて貰うて肩が凝り                |     |
| 同 | 神武以来の景気へ夜なべ追つ <sup>けず</sup>    |     |
| 同 | ボーナスが出たらやたらに休暇 <sup>さん</sup>   |     |
| 同 | 破産寸前見なれぬ顔が出入する                 | 西宮市 |
| 同 | 長男に追われて後をよう生ます                 |     |
| 同 | 減水の水車に似たる暮しむき                  |     |
| 同 | 生い立ちを隠せぬ足の坐りダコ                 |     |
| 同 | 五重丸母に拜ますランドセル                  | 大阪市 |
| 同 | 洗濯機掴めば追うて来るテレビ                 |     |
| 同 | 静かなる抵抗震すにシャンと待ち                |     |
| 同 | 土産屋は予算も聞いて選つてくれ                |     |
| 同 | 御多忙のうちにゴルフも教えられ                | 岡山県 |
| 同 | 敏腕の助役が背の灸を見せ                   |     |
| 同 | 考えておく履歴書のかさを見せ                 |     |
| 同 | 娘の手紙眼鏡拭いてもばやけて来                |     |
| 同 | またしても桜々の琴の弟子                   | 西宮市 |
| 同 | 顔ぶれへその曲つたのも混り                  |     |
| 同 | 警笛も輝くばかり新車出る                   | 大阪市 |
| 同 | 四人ともガムを噛んでる少女達                 |     |
| 同 | しんなりと女のカサが倒れて来                 |     |
| 同 | 学者タイプねと云われて淋しがり                |     |
| 同 | デパートの売娘月給顔へぬり                  | 鳥取県 |
| 同 | 背広着てみてもやっぱり手鼻かみ                |     |
| 同 | 麦の穂を拾う頭上で三味の音                  |     |
| 同 | 東京の嫁に長男取られたり                   |     |
| 同 | 宿題が父の威厳では出来ず                   | 岡山市 |
| 同 | 生きていて呉れとは恩給があり                 |     |
| 同 | メニユーにはない素 <sup>さん</sup> 妻は好き   |     |
| 同 | あの顔で煮ても焼いても食えぬ <sup>さん</sup>   |     |
| 同 | ボーナス日娘がスカートを <sup>さん</sup> 買うれ | 岡山市 |
| 同 | スクターに乗せて貰うて肩が凝り                |     |
| 同 | 神武以来の景気へ夜なべ追つ <sup>けず</sup>    |     |
| 同 | ボーナスが出たらやたらに休暇 <sup>さん</sup>   |     |
| 同 | 破産寸前見なれぬ顔が出入する                 | 西宮市 |
| 同 | 長男に追われて後をよう生ます                 |     |
| 同 | 減水の水車に似たる暮しむき                  |     |
| 同 | 生い立ちを隠せ                        |     |

西宮市津門西口町五〇  
電四一四三番

八木摩天郎

堺市九間町山ノ口筋

1

鐵

大

1

吾鄉玲人

大阪市住吉区御崎町  
一丁目

## 川柳雜誌社

大聖寺支部

石川縣江泊郡大聖寺町  
四八





流感へ母はうがいの音頭とり  
 貞淑の妻は説経の聲が冴え 大阪市  
 なつかしい呼名にかえるクラス会  
 流感にかゝらぬのまで自慢にし  
 農薬や死の灰蛙もつらからう 熊本県  
 母さんは子守り疲れの肩がこり  
 会計はまだ母がしてよう動き  
 なぐさめてくれる金魚は 松江市  
 クイズもう当るつもりでござら  
 口紅がまぶしピン트가合いくし  
 年上と云う気安さが恋になり 大阪府  
 惚れ切って損も苦勞も嬉しゆうて  
 回復期早や情熱の中にいる  
 どちらからともなく覗く市場籠 玉野市  
 潰れたらよいパチンコへまだ通い  
 胸の線よりも見せたいネックス  
 愛情を示す見舞の花ひらく 今治市  
 押花も入れ恋文のこまやかさ  
 錦こそ着て帰らねど故郷よし  
 失業をしてから風邪にも強くなり 貝塚市  
 退院が昼行灯の職につき  
 信仰が重荷になった恢復期  
 社交術恐妻組にも名を連ね 兵庫県  
 何かある時だけ撫で出す花瓶  
 此の子にも夢あり朝の如露の水  
 長生をしてポックリと死ぬ予定 笠岡市  
 金の無い話は女房上手なり  
 やめられぬ煙草に困り胃に困り  
 女連れ散々ねばり買わず去に 小松市  
 更年期医者で足りない灸をすえ  
 家具売場男の返事ウンウンウン

同 吉川 悦子  
 同 同  
 同 淵川 秀敏  
 同 同  
 同 本田 稔  
 同 藤本 千永  
 同 則田水鏡子  
 同 越智 義夫  
 同 護川 梢月  
 同 辻 文平  
 同 同  
 同 木山 遠二  
 同 村井 城南  
 同 同

たぬき寝が若い女へ席を分け 姫路市  
 通訳も速記も出来てまだ嫁かず  
 妥協した刹那ジョッキを配って来  
 人いきれにバラ展のバラ酔うて 芦屋市  
 パイオリン抱えたチビをつれ歩き  
 老友は保険会社へ身売をし  
 職務尋問してるボリスは 大阪市  
 自信ある女噂へ振り返り  
 豊作の噂都会は値上げだけ  
 記念日を忘れ愚妻に叱られる 松山市  
 プライドは立派甲斐性のない男  
 貫い手がないぞと娘叱られる  
 妻の愚痴がお隣様を例にとり 大和高田市  
 直角に女を乗せたオートバイ  
 センチでは切れない母の持つ鉄  
 耳かきが坐りなおした耳の垢 岸和田市  
 諸植えた昔は云わす花畑  
 重宝な口よ榮転祝いに来 兵庫県  
 官庁へも妓高下駄はいてくる  
 美容体操揺れる乳房を感じつゝ 熊本県  
 得をしたつもりが妻の特価品  
 早く来てよかった下座にあぐら 玉野市  
 講習費払って欠伸して帰り  
 おむつかえて貰ったみぎの笑顔 金沢市  
 袋貼りこんだところになが出来  
 新緑に保育園ほど子を連れて 福岡県  
 そくくさと伝言板も春らしく  
 さすがボス素破抜かれて呵々大笑 石川県  
 社長からお小言だけはリレーされ  
 血統の自慢牛にもある鼻紋 宮崎県  
 空腹の腹を大事に持ち帰り

同 植村客遊子  
 同 同  
 同 里田一十  
 同 同  
 同 米浪進之助  
 同 同  
 同 松本 窓城  
 同 同  
 同 岩垣日本村  
 同 同  
 同 内藤ささ子  
 同 同  
 同 遠山 一雨  
 同 同  
 同 星野 草柳  
 同 小谷 仙山  
 同 同  
 同 山田 圭都  
 同 阿部たけし  
 同 同  
 同 高瀬 幸路  
 同 同  
 同 野口卯之助

南海電気鉄道株式会社

川柳部一同

石居 高志

豊島区池袋五ノ二八四

菊地 紀久

足立区千住二ノ三八

奥比呂志

板橋区板橋町五ノ九二九

優良株を買うチャンスは今

江口証券 金泉 萬樂

大阪市東区北浜一丁目八

電話北浜八八八一〜九

自宅 大阪市東淀川区国次町

四七九



世辞一つ云えぬにはらも吹<sup>き</sup>云い 大洲市  
絶好のチャンスも風と共に去り 同  
脚線美目に泌むサイクの五月晴れ 貝塚市  
ぬけく<sup>と</sup>と天気予報のミスばかり 同  
納骨へ楽しい旅の若夫婦 岸和田市  
この頃の女中へ辛抱する主人 同  
クイズにも期待をかける慕し向き 天理市  
失業は妻の嫌味も聞き逃し 同  
淑やかと言われ和服が好きになり 山口県  
おろすこと知らぬ女の子沢山 天理市  
療養の夢を育てる花作り 同  
消毒の匂いがうつる七分粥 同  
雑草も生えない庭で新開地 守口市  
体格のよいのが寿司屋の出前持ち 同  
複雑な事情代筆ほろりする 宇都市  
昂奮の眼鏡かけたりはずしたり 同  
無駄遣いせぬアベックの進む 福岡市  
外人へ渡すコケシはキツスして 大阪府  
物足らぬ養子で妹にまた養子 大阪府  
咲かないと植えっぱなし腹を立て 同  
手伝いをしてる積りが邪魔になり 大阪府  
洋裁へ行く口実を見抜かれる 同  
明日は帰るに旅々と大げさな 笠岡市  
旅からの土産風邪引きとは淋し 同  
寝転べば砂丘天まで続いている 鳥取市  
まだ唄が出ぬとて唄うまで酌がれ 同  
顔知らぬ生母の法事でのみ明し 大阪府  
真新しいタンスへそくりもかくし 同  
代筆に優る老母の仮名手紙 笠岡市  
たまさかの雨読飲む友おじさん 同  
里の母石油コンロを拭いて去に 小松市

富永 建朗  
杉本 一鶴  
中野三四郎  
岡田花奈女  
岡田 綾女  
原田 綾女  
仲野花鶴美  
大谷 月都  
岩原 滔川  
岩田十三楼  
谷沢 好祐  
河井 唐佑  
出原 真奇  
岡嶋 芳道  
大藤 朗舟  
佐内 隆文  
万仲 一進

研究のように釣人の後に立ち 同  
夫君転勤惜しい婦連の役を辞め 七尾市  
大相撲天皇杯は腹で受け 同  
地下足袋で出張農業技術員 滋賀県  
晩酌と別に補強の養命酒 同  
泉水に旧家の夢がよどんで居 岡山県  
それ球の窓へお詫びの子が並び 新居浜市  
ぶらさがりには縁のない胴まわり 同  
流感に敬遠されて歛をふる ホノルル市  
人生がどうのこうのと食べるだけ 同  
成功者つづけば疼くものに触れ 出雲市  
決めかねる覚悟へ海が大きい過ぎ 同  
退職の金のあつさをかなしがり 室岡市  
申訳ない程校長用がなし 同  
姉妹かと思われ母さん悦に入り 同  
文化鍋に誰憚らず茶粥炊く ハワイ  
ニューギニア水爆の世に人を食ひ 福岡県  
神の意志などを笑うた避妊法 同  
婚約の頃は聞いてたシンフォニー 同  
間の抜けた顔を夢見る顔と云う 愛媛県  
小夜食へ男こまめによく動き 大阪府  
生き字引などと時々おだてられ 同  
ひとところ空気が抜けたよい男 同  
窓際のベッドが廻る程に癒え 出雲市  
病院を出れば女性のまぶしがり 同  
月給を貰うて雨の日の仮病 玉野市  
白百合の濡れて女の肩に似る 同  
嫁き遅れ信心不足のせいにされ 東京都  
特売場御進物ですかと聞かれ 平田市  
パチンコに負けた疲れと母知らず 同  
叱られに寄れば度胸を貰める酒 同

前浜嶮多路  
土守 蜻蛉  
岡崎 一也  
加藤 向水  
友保 斧平  
野村 岬月  
木山 二路  
満生 拜山  
三上 春雄  
榎 水泡  
青柳扇子仙  
石橋万古人  
伊原 明林  
菊地 紀久  
久家代仕男

暑中御伺

戸倉 普天

兵庫県氷上郡氷上町  
小野

支部 支川淀社誌維柳川

七 八 町 条 十 区 淀 東 市 大 阪

武部 香林  
西森 花村  
若本 多久志  
加納 山茶花  
坂田 東洋男  
志水 礼司  
早川 清生  
武部 若菜  
水野 水茶  
岡部 三十郎  
小林 文児  
中村 茂夫  
小林 山舟  
齊本 美州  
木村 水堂

川維吳支部

林野 甦光  
余項 紅児

吳市吉浦中町一丁目

大阪市阿倍野区旭町  
三丁目一四番地

麻生路郎先生

## 古稀祝賀



古稀祝賀柳川大合會庭園に於ける路郎師

若本多志氏撮影

— 川柳雜柳 つり —

## 佳日佳日渦巻く歡喜

柳史に輝く世紀の祭典

きょう七月七日は、われらが恩

師麻生路郎先生の古稀祝賀川柳大

会とあって、柳界の話題はここに

集った感がある。

会場は大阪にこんなところがあるのかと思われる網島御殿（藤田

元男爵邸）。

ここは大近松の「天網島」で知ら

れた大長寺のあったところ、邸は

自然林さながらの老樹にかこまれ

た八千坪、折からの雨にうたれて

燈籠のたゞずまいも奥床しい。

場にあてられた百畳敷大広間はシ

ヤンデリアの下にまぶしく輝いて

いる。特別課題優勝者に授与され

るVENKOの楯（エスベラント

の句碑でおなじみの大和の翠光、  
 白香両氏によって捧げられた紅白  
 の祝餅を籠に盛りあげて、美しい  
 師弟の情を見せ、集る人々の心を  
 つよくうつ。柳友は会場に隣りし  
 たロビーにまであふれている。  
 一時三十五分、四百を超える万  
 場の拍手に迎えられる路郎先生御  
 夫妻着席。司会の好郎副理事長皮  
 切の開会の辞に喜びの言葉が口を  
 ついて出る。おもむるに壇上に立  
 った栗理事長の挨拶は重々しい巻  
 紙の辞。つづいて生々庵医博が、  
 門下生一同を代表しての祝辞。會  
 て還暦の日、先生の名作、六十一

## 祝 辞

本日茲に我が国川柳界の巨星麻生路郎氏の古稀祝賀川柳大会に臨み、一言祝辞を述べる事は私の尤も欣快とする処であります。私は麻生氏と教度に亘り快談した事があります。談偶々熟するや正に談論風発という言葉の通りの熱情家にして、本日茲に古稀の賀を迎えらるるとき既にその年寿であつたかと驚いている次第であります。

氏は我が国に唯一人の職業川柳人として機関誌「川柳雑誌」の月刊を断行され、川柳の社会化、文化の向上に、日夜精魂の限りを尽されているときいております。

尙昨春秋関西短誌文学連盟結成されるや、推されて理事長となり、蕭々その発展向上に努力されていることもきいております。本日この目出度い大会に列し、氏の限りなき文学に対する情熱の益々旺盛ならん事を祈って簡単ながら祝辞と致します。

昭和三十三年七月七日

大阪市長

中井光次

まだ情熱は燃えに燃え」に始つて、やがて迎える喜寿、金婚と重なる御祝いは勿論、百歳の寿をお祈りしつつ、そのご健勝、ご長寿の源泉がベターハーフ葎乃奥様の御すこやかなことであると、心からなるお喜びを全会衆の大拍手をリードすることを以て結ばれた。

続いて元氣一ぱいな路郎先生が壇上へ歩を運ばれて心からなる謝辭に目がしらをおさえる人がこかしこに見受けられた。

番傘川柳社からは友情の花束、わが不朽洞会からは尊敬の花束が、先生の古稀を祝うふくいくの香りをただよせる。

中井大阪市長祝辭、毎日新聞社祝辭と共にそれぞれ記念品が贈られ、市長からは特に先生の大好物の銘酒「白雪」を、特に毎日新聞社からは、名匠平松宏春先生作「鑄銅花瓶」、麻生家の家宝として長く子孫に伝えられるであろう名品である。台湾の永瑞行の李阿目社長から贈られた百寿の一軸は会場の目を奪った。

なお門下生一同を代表して川柳不朽洞会理事長西尾葉氏から記念品を贈呈し先生の長寿を祝福する。柳社を代表して堀口塊人氏が祝辭を述べられたがさすがに筆よし弁よしの氏は、路郎先生は勝負ごととに興味を持っていられるのかど



(中島孝直君撮影)

長、短詩文学連盟、前田雀郎氏は北海道から九州を縦断する各柳社ならびに川維各支部からなるスケールの大きな世紀の祭典らしく関係者をい

会たく感激させる。

場 いよいよ先生の講演。この日の拍手の音は記録的なものであった。講演内容は別項参照。一言に

一 (部)して申せば「私は何故嚴選するか」であった。川

維川柳まつりの唄の一節「あんまり選者が辛いのを引用しての柳話がつま

く。今日こそは回顧談でもされるのかと思ってい

たら、なかなかどうして、まだ川柳の旗を押し

立てて、自ら陣頭に立っ

て叱咤される熱弁には正

直下ギモを抜かれたもの

である。

さて、いよいよ披露と

なると、さすがに場内は

ちよつと色めき立って、

チエック用の赤鉛筆を出す人、ノ

ートを出す人々が、第一陣の須崎

豆秋氏を拍手で迎える。

「名人」 須崎 豆秋選

「飲み手」 土井 文蝶選

「私」 北川 春葉選

祝電五十通のなかには知事、市

「旅」 清水白柳子選  
「福」 麻生 葎乃選  
「若返り」 楊元 紋太選  
「友達」 岸本 水府選  
やつと一句抜けてホットする人たちの風景も大会らしい和やかさである。

不朽洞賞杯は、葎乃先生選の「福」の天位、西森花村氏が獲得された。

披露全部が終つたのは三時すぎ。ここで舞台は一転余興の開幕となる。

梅志、梅里両氏の地謡に賀峰氏の仕舞。曲は「高砂」

白のレースのワンピース、お医者さんか、お師匠さんかといわれる山川阿茶さんが、今日はそのお師匠さんの三味線で、名も芝阿茶を名乗って、哥沢「松葉浴衣」で淡いところを披露される。

次は川維の母と慕われる葎乃先生と、医博士々庵氏との相い舞

「鶴亀」古稀を祝うに「鶴亀」よし「鶴亀」ビタリと合った「いき」のよさも、

何を選んでいたぐくかは先様におねがいして  
タカシマヤの商品券を  
お贈りするのにも心に  
くい贈物かと存じます

一〇〇〇円から  
一〇〇〇〇〇円迄  
大阪・東京・京都  
3店に共通です

**高島屋**  
大阪・東京・京都  
高島屋

きょうの日に備えられたことがうかがえるというものである。

丸尾潮花氏が「廊八景」を銀扇のさばきもひときわあざやかに舞い納めると今度は婦人友の会の若柳貴洲師匠が長唄「老松」を踊りぬく。さすがはプロなるかなという美しい線。

さて、その次は待望の旭堂南陵師が伴小南陵の代役でござりますと前おきして「講釈師見て来たよいうな嘘をい」と川柳と講談を緒として御得意の「家康御難干船」の一席。長寿して成功した家康の一番苦しんだ本能寺事件後の十日間物語、川柳一路、七十年の茨の道を歩まれた路郎先生と一脈相通じこの日にふさわしい目出たい演し物であった。時に予定の五時少し前。多久志氏の閉会の辭を以て大会行事第一部をとごおり

なく終り、全員の記念撮影がすむと、懇親宴に残る人たちはまた会場へ戻る。

家路へ急ぐ人たちは秩序正しく廊下を歩きながらまだその興奮がさめぬようであった。永久に記念される今日の祝典に参加出来たよろこびを共に語り合いながら、路郎先生ご夫妻の健康を祈ったものである。

昭和32年7月7日

(古方記)

× × ×

手拍子うれし

## 懇親会

記念撮影を終って大広間にもどれば、既に百三十余名の懇親会の席が設けられてある。宴席も順序不同の民主的。今日の路郎先生、古稀の賀を心から祝福する柳人、名士、弟子、孫弟子が次々と思いつく席に着く。

水府、紋太、塊人、宣介、梅子、文蝶、沐天の諸氏を始め遠来の久米雄、季賀、麦太楼、雷山の諸氏からおしどり組は栗、生々庵、小松園、一十の諸氏のむつまじさもほえましい。

緑雨、翠光、白香、亜鈍、愛二諸氏の顔合せもこうした大会ならではめつたに揃わぬもの。



影撮念記会大柳川賀祝稀古生先路生麻

遠近を問わず降雨を論ぜず、揃った人々の顔には路郎先生御夫妻と共に喜びが満ち溢れている。

やがて祝盃は司令軽抄の松江梅里氏によって切られ、皆それ／＼自由に和やかに歓談がすゝめられてゆく。

余興には事缺かぬ不朽洞会の猛者が数多く控える中に、皮切りは梅志、梅里両氏の謡曲弱法師の連吟は当藤田郎のすみ／＼まで朗々として響きわたる。厳肅な一と時である。

次で天理の婦人友の会の女性が

黒田節入り名槍日本号の名吟で男性のドギモをひやりとさせる。

舞姿は何と云っても女性、霞乃女史の舞踊に味と気品と優雅な若さを見せて「五所車」を舞いおさめられた。

川柳ゆかたの医博士々庵氏も悠々せまらぬ風格で舞台一ぱい舞われる。

和氣満々として酒をくみ交す没食子、古方の両氏、白柳子、潮花、紫香、淡舟、いさむの各氏は紅潮した頬を染めて一角に陣を占めている。

喜色満面の路郎先生は、篠山の小西夢鬼氏の音頭に合せて無鬼氏夫人富士子さんのリードで、舞台狭しと唄い踊る篠山節を楽しんでおられる。

風からのつかれは一杯の酒で流し、春巢氏の狂言は堂に入ったもので、腹の底から笑わせる。何をやっても抜群の西尾栗氏は今度は旭堂南陵氏の声色で満場をアツと云わせる。

田名部修三氏の老巧な浪曲をきき乍ら充分の酒料理に宴は益々その極に達し、扇を持っておどるもの、肩を組むもの、握手するものとその尽きるところを知らない。

路郎先生万才、川柳雑誌社万才は場外にこだまして今日の盛會を喜び合つて会を閉じたのである。

(賀峰記)

味の七コ

モダン 川柳

心斎橋大丸北の辻東へ

御門

TEL 6684

御集会には階上御利用下さい



御禮

路郎先生のご祝賀に際し各方面の多大なる御協力を茲に感謝の意を表します。

川柳不朽洞会  
川柳雑誌社

割烹

スタンド

水引

南区坂町  
電話 五七二六

## 大会スナツプ

鉛筆のカメラを提げて、あつちへフラフラ、こつちへフラフラ。そこで出来上ったのが、この活字のアルバムです。

☆

## 心中「天」の網島

「先代鶴次郎の玩辞楼十二曲の内」心中紙屋治兵衛「で有名な遺跡がこの邸内にあるそうやナ」

「小春治兵衛のことより」天の網島「つてウソやぜ。ここは」没の網島「や。」

と、全没の句箋と心中した某氏クサルコト。

☆

## 婦人友の会活躍

小石理事長自らの陣頭指揮もさることながら、不朽洞賞杯は霞乃先生選とあつて友の会大ハリキリ。遠来岡山組を始め続々出席。潮花氏も大車輪の応援でうれしい悲鳴。

「キリキリ舞や」と、この人こんな時でも舞を忘れない。

☆

## 旭堂南陵師講演

さすがに講談の大御所、南陵師得意の「難波戦記」は長講一時間の熱演。

「まるで、あの時代に生きていたような話しぶりだね」とその神



(々々む困を生先両乃霞・郎路)

技に酔えば、口の悪いのが、  
「講釈師見てきたような嘘を  
言い」

☆

## 梨里夫人の愛息

父君に扇子であおがせ、母君に抱かれて、路郎先生の初孫哲夫ちゃん。ボクの顔を見るといつもニコリ笑う「キミの顔がオモチャに見えるのやろ」とは菊沢小松園氏だ。胡椒のようにピリリと辛いのはボクの鼻のものが、この人には時々アベコベにやられる。

☆

## テ・ブ・レコード歌手

豆秋氏作「川雑川柳まつり」の歌が、操子さんと葉乙女さんによつて吹込まれ、それが路郎先生の柳話のなかに挿入された。新日本放送の岩崎愛二氏が遅れて出席されたのでその採点は不明である。

☆

## 一石二鳥の吸殻入

名におうこは網島御殿である。すべてが雄大で風流である。特にペランダに備えつけられたタバコの吸殻入はその雄たるもので、これを名づけてバケツとい

う。素破！時をうつさずリレ式に使われるわが国防火用具の一つでもある。

☆

## かけの声

潮花氏が舞台に立つと花代子夫人、レコードは他人にまかされぬとあつて汗ダクの状態。あつのはコチャで御座ンす。

生々庵氏の場合もまた然り、小石夫人も良妻ぶりを示される。

さて、霞乃先生にはと、目を向けると、路郎先生は眼鏡の奥からやさしい眼で声援される。目は口ほどにモノを云うものである。

これらの舞踊にかけの人があつたのを忘れてはならない。それはレコードの音響効果等になみなみならぬ苦心をはらわれた麻生一歩氏がある。舞台の舞いを成功させた努力へのお礼を申上げると、「イヤ、ボクも縁の下の舞いをやりましたヨ」

(一三夫)

## 祝電 (順不同・敬称略)

大阪府知事赤間文三・大阪市長  
中井光次・関西短詩文学連盟・  
前田雀郎・田中辰二・北国新聞  
社学芸部・大阪警察病院院長井上  
湧三・川柳研究社・前田伍健・  
日ソ親善協会大阪府連合会・ふ  
あうすと川柳社・大島満明・高峰

柳児・月原宵明・西川青美・大  
野風柳・柴田浪子・大谷弘平・  
広島川柳会・辻井京二・竹原川  
柳会・木村杏園・近江砂人・今  
治川柳会・青森川柳会・石曾根  
民郎・深野吾水・武部香林・紅  
川柳会・服部十九平・加賀佳汀  
・三鴨美笑・田村藤波・弘津柳  
慶・尼縁之助・本庄快哉・京都  
支部一同・田中鳥雀・榎田竹林

## 古稀祝賀

岡山支部

浜田久米雄

## 古稀祝賀

土井雷山

津田麦太楼

# 柳話 厳選の意義

麻生 路郎



不朽洞会より記念品贈呈

路郎先生(中央) 豊男先生(右端)  
西尾繁雄理事長(左端)

(前略) 私がなぜ厳選主義を採っているかということ、少しくお話ししてみたいと思います。私のこの厳選主義は被選句者にはかなりに厳しいものであることが、須崎豆秋君が作詞した川柳川柳まつりの歌詞の第三節にも次のように唄われて居ります。

一句出た／＼一句出たヨイ／＼  
ぎよ／＼とするよな句が出来た  
あんまり選者が辛いので  
天かと思たら没だったサノヨイ／＼

折悪しく雨が降りますのに、かくも多数に「奉会下さいました」ことを衷心から、お礼申し上げます。さよふの佳き日に著さば、いろいろお話し申上げたいことは

山ほざるのでありますが、私に與えられた時間が段々削られて、大いに語ることが出来ませんので、それ等の中から私はなぜ厳選をするかと云う一項目

だけを、それもく大雑把に申上げて私の責めをふさぐこととしたしました。(路郎)

きょうはこの歌を皆さんに合唱していたゞき婦人友の会の方に踊ってもらつつもりでいましたが、時間の関係上、歌だけでご辛抱願うことにしましたが、この歌詞にもあるように「あんまり選者が辛いので、天かと思たら没だった」折角みなさんがこの句なら必ず天に抜けるだろうと云う自信の下に出句されておられるのに私がそれをみな没にしてしまう(洪笑)ことは選者としての私もホントにすまないと思つて居ます。(洪笑)しかし、みなさんが出句された句よりも、まだもつとまい句が曾て作られているので没になったわけ、(笑)その点は御諒承願いたいのであります。

私は毎日柳壇の選をいたしておりますが抜けると非常にうれしく思われるが、没になると非常に憂うつになられると云うことは百も承知して居るのであります。私もそうした気持ちを味わつた時代もあったのです。従つて自分の作品が活字になれば、耳のきこえない隣りのお婆さんにまで読んでもかせるほどのそのうれしい気持ちはいく分るのであります。それがだんだん抜けなくなつてくると、始めは四句出して一句抜けたのにこんどは何十句も出してたのに一句も抜けず、これはどうした事だと不平をブチまけてくる人もあるのです。なぜ私が、みなさんのよくあるこぶような選をせず、こうまで厳選をするかと申しますと、数十年前から私は川柳界に、世界にはじないような大建築物を建てようとする念願に燃えているのであります。あの大阪城の石垣の石のように、積み重ねられていく一つ一つの石が、非常に厳選されていくように立派な大阪城の築城が出来上つたのであることを思ひますと、私の云う柳界の大建

築物のその素材となるみなさんの一句一句は大阪城の石垣の石に等しいのであります。大阪城が厳選された石を積み上げて立派な石垣を作り、その立派な石垣を土台にして名城が完成されたように川柳という大建築物を建てるには釘一本、鉄一本までも厳選せなければならぬと思つたのであります。明治時代に正岡子規が俳句の革新を叫んで俳句が伸びたのであります。詩があり、短歌があるのでありますから、まごまごしている川柳だけが短詩形文学からおきざりにされてしまうかも知れないのであります。だからどうしても厳選に厳選をして、川柳をより秀れたものにしなければならぬのであります。それには何んと云つても良い材料が必要なので勢い厳選と云うことになるのであります。そうした理由から私の厳選は今後も続くでしょうが、しかし皆さん

今しばらくご辛抱が願いたいののであります。柳界の大建築物が完成するまでは「さあ、どうだ、さあこれでもか」という風に名句を引つ提げて、ねじ込んででも構いません。そして諸君の協力によって一日も早く竣工させて欲しいと思ひます。いささか誇張した云ひ方のようにおうけとり下さつた方々もありませんが、「川柳雑誌」の創刊当時に三十年計画を発表して誇大妄想狂のように云われたが、それ等をより以上に実行にうつして来た私としては、これでもよほど遠慮勝ちに意見を述べているのであります。川柳の前途はまだまだ遠いのであります。どうか私が仆れました次の打者がいのちがけて川柳のために三塁打をかつとばしていただきたいものであります。(記録的拍手)

本稿は当日の柳話に多少の補筆を願つたものであります。(一三夫整理)



蝶矢の  
ウエスタン シャツ

東京 蝶矢シャツ 大阪





けちんばは女難の味も知らず老い 同

拾ったとなれば一円も尊し

小西 無鬼

大阪銭湯

下駄に鍵衣類も鍵に気が疲

同

狡猾な笑いは獅子に似た入

川端 鬼酔

大阪井つかえば教養ない如

不二田 一三夫

子是新刊親は均一買うて去

金井 文秋

背広着た日も商人のお辞儀

早川 清生

金力の限界を妓に教えられ

橋高薫風子

結局はそろばんずくの信者

石田 沐天

なり

こんどは東京方のを

小切手を書く悪戯に家庭揉

みる

百万をかけて売れない店に

芳浪

ボーナスを八つ割きにする

飾り窓

別に生きる計画したでもな

く生きる

舟村

耳よりな話疑ぐる貧の底

正紀

この店も江戸から続く無愛

想

同僚に好かれ妻には泣かれ

居

六十を過ぎおどろかぬ十二

月 突風

とひろい出してみるものの、東京

の川柳人でなければ作れないとい

うものは少くて、大阪のそれと共

通な発想のものは多いのである。

よく考えるのに川柳というもの

の普遍性は、東西の区別ないもの

であっていいのだし、路郎先生の

おっしゃる「いのちある句」にい

たつては、なおさらそうである。

前に引用した河盛先生の文章の

中に「大阪弁はインテリの言葉に

する可能性は十分にある」とおっ

しゃっているにもかかわらず不二

田一三夫の句に「大阪井つかえ

ば教養ない如く」とあるギャグは

どうしたものであろう。大阪弁に

たいする地元の人々の自卑性——そ

れは大阪弁にたいするものではな

くて、大阪人の、おのれを痛めつ

けている日常性にたいする自己批

判ではないのか、そういう自卑性

を克服するためにこそ川柳の普遍

性が望まれ、川柳を大きくしてゆ

こうという願望をもつものではな

いか。

文学の発展は、いうまでもなく

そういうおのれを痛めつけている

にんげんの傷口に深くメスを入れ

ることによって文学の一ジャンル

である川柳をも「いのちある句」と

とするのであるから、よくなど大

阪人の作句に大きな希望をもつて

いるのである。

それに反して東京人の作句には

自卑性の深さはあるにしても、そ

れを裏返して、反撥しておのれを

是正するというよりも、自卑性の

底を掘りてしまつて「これがにん

げんの姿だ」と断定してしまう早

急性がある。

つぎの、東京での名作家と大方

のゆるしている古谷盈光さんの作

句をみてもらいたい。

親子四人生きる埃

りも東京都

誰がための命子を

負い親を負い

いつの日か終る命

に拇印濃く

恥多き一生の顔月

静か

白湯嚥んで孤高つ

らぬく瘦。ぼち

生れ来て小の虫と

は言はれけり

夜気濤々かばかり痛き卑下

を堪へ

六畳にその微をなせる二夫

婦

魚の眼の動かす泣かず秋一

日

いくつかの岐路をたがへず

小市民

じだらくにすぎし末期の水

を欠く

これらの一句一句を独唱してみ

ると、ジンと寒けがするほどで

ある。

もし川柳作句をたのしいものと

するなら、これら盈光さんの珠玉

の一句一句は吟唱して、けつして

たのしいものではない。もっとも

この作者は長い闘病の明け暮れで

鋭い神経は日一日とやすりにかけ

るようになって

鋭になつて

いることは

じじつだが

この作者が

心の安らぎ

を取戻した

ら寂光を放

つであらう

と期待され

る。

ひとのこ

とばかりは

いえない——よくとて老来ひどく

こころが沈滞して発展性のある作

品をうることができない。せめて

大勢同好の集る句会に出て、おの

れを切り開こうとつとめているが

川柳の効用というものを信じてい

るばかりはやがてこの沈滞からぬけ

出て——すくなくともおのれを客

観する地点にまで達したいとおも

っている。

田毎荘

心斎橋大丸  
北ノ辻東入ル  
電話 (27) 八八六〇  
三二一九

川雜・篠山支部

小西無鬼 酒井ひか平

前川左文字 岡沢凡志

前川越山 遠山一雨

永尾永断 大安一風

出口白猫児 寺山喜天

大木枝葉 河原みのる

長沢秀静 笠貫雀子

小西富士子 西田初穂

畑小菊 遠山よし子

辻文平 清水洋牛

小児科・沢田医院

沢田四郎作

大阪市西成区玉出本通一ノ一三

平安

京都柳界の  
代表月刊誌

誌代 一冊 四十八円 (千共)  
半年 二百七十円

京都市中京区夷川通鳥丸西入

平安 川柳社

振替京都七五六番



## 川柳第二教室

### 川柳の本質

清水白柳子

川柳は面白いものですわねということから川柳に入れた人が沢山あると思われまふ。その人達が川柳は面白くなければならないものだと思つて作句してみたところがこんな句は今時の川柳ではないと言われて、一体どんなのが川柳なのかと変に思つて居られる人が多いのではないかと考えられるのであります。面白い筈の川柳が面白くないのは一体何故なんぞせうか。川柳は何故面白くなければならないのでしょうか。と考えて見たのであります。

これは世間一般の人達が思つて居られる川柳と、吾々が作句して居る川柳との間に何か差があると云う事になつてくるのではないかと思われるのであります。世間一般の人達の云う川柳とは、古川柳（徳川時代の川柳のことをこう呼んで居ります）の中にあるくすぐりの句（無理に笑わせる句）こつ

けいな句、又は狂句（型は五七五で川柳と同じ短詩型ではあります）が掛け調などといつて、白に黒をかけた、良いと悪いの文字を組合せたりした句などを思つて居られて、例えば「黒犬を提灯にする雪の道」とか「良く結ばば悪く言われる後家の髪」などという狂句や「居候三杯目にはそつと出し」など風格のない句を川柳のすべてだと思ひ込んで居られるからだとと思われるのであります。その時代はこんな句もすべて柳多留の中に収められてゐるので、その時代はこれでもよかったのでしうけれ共私は同じ時代に作られた句でも嬉しい日母はたすきでかしこまり泣く時の櫛はこたつを越して落ち二人目は女房の傘を貸してやり

この様な句を採り上げたいのであります。諷刺、可笑味などそれ／＼の句には一貫して人間の温か味を感じる句があるのであります。こうした句を採り上げないで狂句のような句や風格のない句のみを川柳としてとりあげられてきた事に川柳が間違つて考えられてきた原因があるようであります。この誤まつた考えを正しく理解してもらふために、明治末年の川柳革新運動が起り、路郎先生も川柳啓発のために、種々の雑誌を発行され、川柳雑誌もつづけられてきたのであります。ところが川柳向上のために色々な革新運動が盛んになつたためかだん／＼川柳が固苦しいものになつてしまひました。面白くない句が多く発表されるようになってきたのであります。

飛燕往来 (二)  
★前山北海氏（ホノルル市より）  
先生の古稀祝賀川柳大会は川柳らしく賑わつた事と拝察致します。お知らせがくれましたが祝賀の微意表明に六月三〇日便で送つた小包御受取り下さつた事と思ひます。  
青年の若さに古稀がピンと来ず  
六月号の川柳がやつと配達されたのでむさばるうに頁を繰りました。エレンブルグ氏の講演会の盛況が先生の記事で想像されます。  
ソ連へ行く我等の川柳四部作  
方正医博の渡米記念写真を見てホノルル経由でなくシアトルへ直行され折角の期待も空しくお目にかけられなかつたのを遺憾に思ひます  
ミス・ユニヴァース候補のミス日本、ミス朝鮮、ミス比島と美人の送迎しきり、地元もミス・ハワイ選定、支那人系が入選しました。別の全米大会出席のミス・ハワイは独逸系の混血児でした。  
ミスハワイ年毎変る血の比率  
時節柄御目愛の程御祈り致します  
北海  
★「あんごう」のこと  
室井八九寸  
本誌七月号をくりひろげてみて驚いた。これは六六頁編集室から

暑中御伺

和歌山県今福東部二二八  
秋 月 宏 方

丸尾 潮花

竹内花代子

大阪市生野区中川町  
二ノ三〇

昭和卅二年盛夏

福田 妄夢

蝶 文 井 土

二ノ九通松区成西市大阪

ん。私達も主観的な句を詠んだこともありまし、そうした句でなければ川柳は向上しないと考えた時代もありました。併しそれも長い作句の道程であって、一度や二度は通らなければならぬ関所なのでありますから、作句研究のために誠に結構ではありますが、もう一步踏み越えて、川柳の真ずいふれて、川柳の本質を見つめてほしいと思うものであります。そうして作句された句が川柳家だけ面白い句でなくて、だれが読んでも面白い句でなくてはならないのではないかと信じて居るものであります。だれが読んでも面白い現代的な句がどしどし発表されるようになりまますと川柳の本質が認め

られて、川柳界の発展に拍車をかけることになると思います。俳句に似せるために固苦しい句を詠んだり、川柳の本質を忘れた面白くない句が続く限り、川柳の発展は望み得ないのではないでしようか

## 質疑に答える 清水白柳子

良い教科書を

豊島恒子

毎日柳壇は厳選を以て鳴る路郎

毎日柳壇へ投じた一句が拾われ有頂天になりましたものの、その後はずっと全没街道を歩みつづけながらも、御誌の愛読者となりましたが、周囲に支那もなく先輩もございました。何とか独学の方法を御教え下さい。

御質問は――

大阪市天王寺区宰相山町一四七 清水白柳子宛

の次の「正誤」欄にある(前号一七頁上段二九行目「舞扇」の句は暗合句を発見したので抹消することにした)何心なく読み過ぎたのだが「舞扇」の二字にフト前号をたしかめると、まぎれもない私の名の句ではないか。実に意外千万である。暗合とは期せずして一致することだと教えられてはいる。

路郎先生の「川柳とは何か」の中にも暗合や類似句のありうること書かれてはいる。しかし暗合といえはまず先人作品の拝借、盗用なしの焼直しのごまかしとされ、このような作品に接しようものなら嫌悪を感じる。文筆生活三十年の私、柳人としての野望などない古稀に手の届く齢である。路郎先

生から温情あふれるお手紙をいただいたが、中島生々庵先生にここにおわびを申し上げます。

川柳雑誌社特製

投句用 柳箋

一冊(五〇枚綴)三〇円  
送料(二冊)八円

古稀祝賀記念

川柳手拭 (路郎揮毫)

一枚八〇円(送料共)で希望者に頒布する。代金は申込と同時に送付されたい。(切手代用可)

川柳浴衣

価八五〇円 送費六〇円  
川柳雑誌社サービス部

## 金泥集

麻生霞乃選

課題「風鈴」

この辻の風へ荷を置く風鈴屋 きさ子  
ひと嵐来る風鈴の狂いよう 同  
台風之余波風鈴が派手に鳴り 都詩子  
風鈴もだまって暑さたえて居り 一栄  
風鈴へ背を向けて聞くアロハス 沙智子  
風鈴が風寝をさそう子守唄 白美  
嵐待つ窓風鈴のしずかなり 知恵美  
風鈴も貴方のお越し待って鳴り 俊江

風鈴も妻の好みの音で鳴り 葉乙女  
アパートの風鈴屋を締め出され 若菜  
食卓へ風鈴味を添えて鳴り 小菊  
風鈴をはずして子等を午睡させ 紫  
風鈴が鳴った鳴らぬと二階揉め 河豚王  
風鈴の素直な動きじつと聞く 清子  
風鈴の音で風寝の夢がさめ たつよ  
アパートの窓に風鈴金魚鉢メ女  
風鈴の音にそよ風あると知れ 小石  
風鈴屋子供のそばで荷を下ろし カネ  
風鈴に添乳の母も夢の中 浪寿  
風鈴の音がおこした枕蚊帳 徳子  
雨風が風鈴いや強振り廻し 登志子

風鈴の微熱の夢を添乳され 周甫  
扇風機の風で風鈴義理に鳴り 史子  
夕立へ風鈴嬉しそうにゆれ 美喜  
バラックの家にも風鈴楽しそう 千永  
風鈴の下湯上りの髪を干し 美保  
風鈴の下でガチャガチャシン踏み 阿茶  
風鈴は去年のままの音でなり ふみ子  
さまざまな型の風鈴鳴る夜店 明美  
新調の浴衣へ風鈴鳴って来る 富士子  
風鈴はうちわの先で音を立て 綾女  
背の子が指さす風鈴買うて去に 奈良子  
風鈴が外で涼めと夕の膳 スミ子  
冬越した風鈴すすけたままで鳴り 初穂

体力をつくる

強力…総合ビタミン剤

強力パンピタン

錠(30錠・100錠) はかにミネラル入M

大阪市道修町 武田薬品





## 不朽洞賞杯の

よろこび

山田 季 賛

新春に丁度田舎（滋賀県）へ帰省中、北川春果先生をお訪ねしたら、

季賛君どうか、本社句会に、顔を出さないか、との事だった。

私は考えたあげく、今年は、全出席を、試みてみようと思ひにきめた。新春句会に顔を出して、麻生路郎先生にも、今年は出来れば是非一年全出席させていだきたいと思ひますと、お話しした。

長駆広島からの、本社句会通いが始まったのである。ところが二月、三月、来る月も、来る月も、全没である。

五月に初めて一句、これもお情のように、麻生路郎先生の選に、一句入った。六月にはもうやめようかとも思つた。

遠くから出かけて行って全没とは、全くのところ面白くない。しかし、本社句会でないし聞けない麻生路郎先生の柳語、句評、選評があるのだ。広島では、こればかりは聞きたくとも、聞けないのだ。ただこれ聞きに来るのが楽しみだ。そして、六月も、例に依

つて例の如く、六日の夜行で旅の八となった。六月も又、全没の覚悟でやって来た。

北川春果先生に、句会場で御出合ひ出来ると思つて居たら、都合で先生は、出席出来ないとの事。電話してみたら、夜八時か、九時頃宅へ来てくれないかとの事であった。句会場の中途であり、残念ではあったが、麻生路郎先生にも、実は、北川先生宅へ行くから一足先に失礼をしますと、申上げて、句会場を去り、北川春果先生宅をお訪ねした。

北川春果先生からは、色々と柳語を聞き、もつともつと、勉強すべき事を教えられた。そんなわけでも、六月句会も断念せざるを得なかった。

七日の夜行に乗り、八日朝、広島に着くや、すぐ其の足で、戦場の人となった。ところが翌々日の十日、川柳雑誌社編集部から、入選通知を受け、まったく夢の如き思いをしたのである。又その翌日麻生路郎先生より、御芽生えとの御知らせを受けた。家内の、スミ子もやはり努力ですわねと、賞めてくれたが、麻生路郎先生のお便りの如くに、祝杯は、御酒では出来なかつた。実は小生一口も飲めないのだ。

この通知を広島川柳会の方々に話したら、これ又大いによこんでいたが、十五日の広島川柳会の方、月例句会では、お茶で

祝杯と言う事になった。やはり入選と言う事はなかなか、氣持のいいものである。小生の様な弱輩がまさかとも思ふるし、若しやお情けもあつたのではなからうか、とも考えたが、やはり努力である事を、つくづく思わされた。

路郎先生の教えの様に、「命ある句を作れ」これを、モットーに今後益々作句に、努力することにして、入選の喜びを記します。

（昭和卅二年六月拾五日夜）

## 日本人の性根 (二)

後藤 梅 志

### 大谷光瑞師の大勢逆行論

もういまから云えば昔だが、大谷光瑞さんが、大勢逆行論というのを、月余に亘つて新聞に発表したことがある。筆者の氣宇があらわれて、ぐん／＼読者を引張つていった。内容は読んで字の如く、逆行は更に大勢を生むというもので、この間に非常な真理がある。幸田露伴の努力論、漱石の草枕、みな後世に残るものばかりで、逆行論とともに日本人の性根というものをも思い知らされたように感じる。露伴は努力とは、自然に発するもので、強いられるものではない。恰も撞球の球をつく工夫、釣師のうきに無心なるさまをそれに当るとしている。こういうものには、売文のおいがちつともないから、読者は飛付くようにして説

む。知識層の生活がいまのように荒れて居ないから、国民の末端が為政者について来た。日本も今度の戦争ではひどくやられて、国民は戦争にこり／＼したようだ。戦争は決して無くならないし、戦争のたび毎に、愚痴をこぼしていたのでは、碌な子供は生れない。尤も戦争を謳歌するものではないが人類の自然淘汰というものがある限りは、どこからともなく、戦争や洪水で淘汰されることになる。泣事や知つたかぶりを云つてる場合ではないのだ。それに日本という国は、火山国だから、昔から兵火が相次いで起り、そのたびに吾々の祖先は、家を焼かれ親子ちり／＼ばら／＼にされて来た筈で、

本

福壽司

心斎橋筋大丸前

電話の三三四番

今更ら理屈をこねても外国に笑われるばかりのような気がする。日本人はもつとサツパリする方がよい。

漱石のさと

暑中御伺

西尾 葉

大阪市南区西賑町三  
電話 75 五九六三番

漱石は草枕で実にいゝ文章を書いて呉れた。

住みにくい世から、住みにくい煩いを引き抜いて、有難い世界をまのあたりに写すのが詩である。画である。あるいは音楽と彫刻である。こまかに云えば写さないでもよい。只まのあたりに見れば、そこに詩も生き、歌も湧く。蕭瑟を紙に落とさぬとも瑤鏤（きょうろう）の音は胸裏に起る。丹青は画架に向つて塗抹せんでも五彩の絢爛は自ら心眼に映る。只おのが住む世を、かく観じ得て、靈台方寸のカメラに満ち満ちたる俗界を清くうららかに収め得れば是る。この故に無声の詩人には一句なく、無色の画家には尺牘なきも、かく人生を観じ得るの点に於て、かく煩惱を解するの点に於て、かく清浄界に出入し得るの点に於て又この不同不二の乾坤を建立し得るの点に於て、我利私慾の羈絆を掃蕩するの点に於て——千金の子よりも、万来の君よりもあらゆる俗界の寵児よりも幸福である。

## 樂器



## 集路一

## 西 いわを選

ドラムマシーカがとが軽い音を立て  
うたた寝をせめるにも似たサキソフォン  
尺八の音流れて月おぼろなり  
口三味をのせて陽気に観光バス  
ハワイヤンギターは淋し雨の宵  
伴奏のどうに合わせぬコンクール  
楽器店オルゴールから朝が明け  
熱演ヘライトはドラムだけうっし  
ハーマニカ十九の呼吸よ恋の呼吸  
ウクレレヘキヤンゾフアイヤー燃えに燃え  
町中でもめたピアノが駅へ降り  
デカンショになつて空瓶叩かれる  
楽器だけ一等国の自衛隊  
二階から口三味線で降りてくる  
木琴は半狂乱で叩かれる  
持よりの楽器も楽しクラス会  
盃へバンドネオンのほろ苦し  
指揮棒の先きへ楽器の音がそよ  
カリブソを唄う楽器の野蠻めき  
ジャズバンドは確かなりサキソフォン  
床の間の飾りに楽器買う余裕  
春雄

ドラム打つ汗へ涙もとけ込んで  
楽器だけ揃えてくれたPTA  
狂騒のドラム熱情かりたてる  
(佳)一本の竹に流転の身を托し  
(佳)楽器なく分校長のハトボツボ  
(佳)木琴の独奏春の雨あがる  
(佳)湯の街のギターわびしく霧にこり  
(佳)青春に悔なしドラムの急テンポ  
(佳)タクトいま楽器一つの音に止まる  
(人)商魂が楽器も持たすブラカード  
(地)オルガンの讃美歌揃う塔の虹  
(天)天才の楽器バリーの雨も知り  
(軸)Aの音を合す余韻へ融けかゝり

ボス

直原七面山選

警察へ来ても優遇されるボス  
足で布団直してボスの大あぐら  
交際へボスにもボスの情があり  
ボスの手ののびた女へ媚を売り  
ボス検査されて御近所息を入れ  
町内の旅行へボスはおとなしい  
先生と言われ尋卒だけのボス  
ボスの子がアウトをセフに仕舞い  
学級のボスが教師を手古摺らせ  
まともな話へボスの顔が利き  
藤口は言うがボスには立てつけず  
肩書を並べたボスの大名刺  
ボス或る日孫の積木へ目を細め  
大学の息子に意見されるボス

客遊子  
一進  
吟平  
一鶴  
白李  
鼓風  
義夫  
義流  
高史  
木魚  
晃康  
実男  
三四郎

ボスの智慧先ず警察へ恩を着せ  
真先にボスが花輪を持って来る  
保護世帯へボス暖い手を伸ばし  
胸のバラ大きくボスの御氣に召し  
ボスだの過去をかくしたモーニング  
悪智恵にかけてはボスの名に恥じず  
末席の抗議へボスの目が光り  
滞納のボスに税務署弱気なり  
立候補する気かボスにお辞儀され  
ボスからも花環が届く開店日  
善良な市民がボスをはびこらせ  
ボスの顔一度は立てる名刑事  
しようもない子がいてボスの恩を  
縁遠いわが娘を不憫に思うボス  
ズカ／＼と校長室へボス  
乗客を一わたり見てボスが乗り  
ボスの子を馬に我が子の逞しさ  
友達にお菓子をやつて小さいボス  
ボス何を思いたくらむ目がこり  
手の中へボスも丸めて当選し  
ボスとボスキオンを区切る意地があり  
玉串の順序もボスが来て決まり

(佳)万場の拍手へボスも一礼し  
(佳)ボスと張合う気になったのも女  
(佳)床柱へボスは遺慮もせず座り  
(佳)ボスだからお辞儀しときいな  
(佳)ボスぐらい何よと女気が強し  
(人)善人の義憤をボスは聞き流し  
(地)下僚にはボス別人のいんぎんさ  
(天)伝統の掟にボスは逆らわず  
(軸)本当のボスは紳士で世を渡り

夜潮  
静馬  
陽子  
牧人  
春雄  
藤波  
恒雄  
雄々  
満秋  
恵二朗  
圭水  
一角  
俊見  
雄々  
河豚王  
幽谷  
仲宇路  
凡茶  
卯之助  
雄声  
昌男  
十九平  
水鏡子  
永断  
恒雄  
芳仙  
葉光  
芳仙  
八九寸  
辰始  
七面山

## ヒゲソリ後に

アストリンゼンは世界的常識!

- 1 生々した男性美をつくる
- 2 爽快でヒゲソリがたのしい
- 3 新強力殺菌剤G11配合で一層強力!

明色アストリンゼン

桃谷順天館

二つの眼を、靈台方寸のカメラ  
というのは、少し気障な気もする  
が、これが漱石の流儀でもあつて  
文章は沓え沓えとして、群衆作家  
の追隨し得ぬ妙味があるように思  
う。また文章よりも言葉の含蓄で  
あつて、漱石はたしかに先覚者で  
あつたことを知ることが出来る。  
新しくは云うが、吾々はたゞ路郎師  
に続くだけである。川柳のことは  
くどく／＼云う必要はない。手本は  
旅人ひとと、福寿草二冊あれば充  
分です。そこへ日本人の性根という土  
台をおいて行きたいと思つて居る  
何れにしても川柳を事業として  
やつた人は、路郎先生一人であり  
またその作品は、世襲にけがれて  
おらぬ点で、他人の追隨し得ぬも  
のがあるから、いづれは先覚者と  
いうことがハッキリするときに來  
る。吾々は忘れないでいたいもの  
だ。

いのちある句を創れ



投稿規定

用紙は原稿用紙、文字は正  
確、締切毎月二〇日、投稿先  
本社宛

本社 山雨楼忌句会 (大阪市)

六月七日 午後六時

於 光明寺

白柳子氏の欠席で、古方氏が教えずと  
九州旅行をした時の旅行吟の難しさを自  
句を披露して話された。

路郎先生は、山雨楼氏の異常なまでの  
努力家であったことを述べられ、句を尊  
重する意味から「活字の誤植」を例に引  
き、ついでに故南北氏への吟吟が知らぬ  
間に番傘誌上に無断転載され、しかもこ  
の短い字句のなかに二字も違っていたの  
で、全然句になっていなかったことを遺  
憾とされた。これはエチケットの誤植で  
あろう。六月の不朽洞賞杯は、山なす佳  
吟の中から堂々響びえる山田季賛氏の名  
句に輝く。

(F)

出席者―路郎・葉・一三夫・黙平・淀  
月・静馬・圭井堂・三司・凡茶・高志・  
杜的・逸人・十悟・葉乙女・茶仏・永断  
・雅堂・紫香・梅里・堰子・与呂志・牧  
人・井平・いさむ・文秋・淡舟・多久志  
・豆秋・没食子・水堂・生々庵・昌男・  
美恵子・旭・月都・好郎・古方・清生・  
梧桐・花車・季賛・利武・六龍子・安夢

・千里・柳安子・庸佑・潮花・文蝶・恒  
明・立兒・博也・山舟・進之助・飄太・  
小松園・土佐太郎・極志・繁雄・桂風・  
安子・腹乃

兼題「生前」

麻生路郎選

生前を偲ぶ器が売りに出る 圭井堂  
生前の恋を悪友だけが知り 雅堂  
生前をその墓敵が嘔り立て 博也  
在りし日の事しるゝ茶の冷え 六龍子  
生前のことこまごまと吊辞聞く 梅里  
生前はただこわかっただけの父 花車  
死の直前までの日誌も意らず 黙平  
生前は通るたんびに寄った人 堰子  
生前の豪傑小さく棺にいり 庸佑  
生前の借り下サクサに踏み倒し 没食子  
生前はえげつなかつたとも云えず 博也  
生前に比べて後家のよく肥り 高志  
生前に比へばは分家黙してず 堰子  
酒がまわると生前の事に触れ 文蝶  
生前の仰言つた無理耳につき 十悟  
人柄を逸話に偲ぶ一周忌 淀月  
生前に売れず遺稿として世に出 静々  
生前のまゝに机が一つあり 飄太  
生前を商売敵に褒められる 小松園  
生前に貰えるものは貰うとき 好馬  
生前は生前香典けちつとき 豆秋  
生前の録音へみなかしこまり 利武  
生前はあまたこうだと酒の席 旭  
生前のけんかが思い出にのこり 静々  
生前の借り親戚だから取り 潮花  
生前の事業が北の灯に残り 一七  
生前はどうあるうとも内の人 月都  
生前を看に僧も酒をのみ 茶仏  
生前の厚誼を謝して遠去かり 季賛  
生前の写真芸妓にもたれかけ 季賛  
生前の姿へ位牌小さすぎ 季賛  
生前がほろろ眼鏡置いてあり 季賛

生前はベコベコしてたのを忘れ 路郎  
兼題「煙」 市場没食子選

絵の汽車も煙を吐く世が来そう 季賛  
炭焼きの煙故郷に近くなり 旭  
山で見る汽車の煙も景になり 紫香  
煙だけ残して去った旅の恋 雅堂  
棚引いた煙車窓に見る故郷 進之助  
故郷はうれし松葉の煙る風呂 飄太  
焼跡の煙早立ち見て通り 紫香  
日航機三原の煙になでられる 圭井堂  
煙はよろこぶ 神武景氣も下り坂 美恵子  
遠慮しい二階は飯を焚く煙 文蝶  
クレオンの煙軸先をなめている 圭井堂  
労働手を握って煙めでたがり 牧人  
湯の煙此の世の地獄見て帰り 進之助  
焚火する煙隣りも来てしやがみ 茶仏  
人生の終着アベノに立つ煙 進之助  
物凄煙インテリ二人吸い 梅志  
大阪の煙がこわい退院日 美恵子  
新生の煙ビースをやりこめる 茶仏  
細ぼそと煙をたてて停年期 好馬  
部長課長煙に巻いて寄附をとり 梅志  
吸いさしの煙吸わない方へくる 淡舟  
線香の煙のかさも御縁日 梅里  
合掌の煙へ一とすじ立つ煙 十悟  
煙とはなりぬ紅顔空しかり 恒明  
香煙はむせるほど欲張りな人はかり 葉  
煙になったらしまいやとはむ話 好郎  
煙しか見えぬ火事やと寝てしまふ 井平  
香煙ヘドライ息子も手を合わせ 淡舟  
人生に未練もあつて煙となり 紫香  
橋の下ここにも生きて居る煙 三司  
焼跡にまだ細ぼそとたつ煙 没食子  
兼題「供養」 黒川紫香選

鰻屋の供養小さいのだけになし 旭  
祖母だけが精進料理で供養をし 陽子  
お供養の席で禿頭氣にならず 梅志  
親不孝詫言の院号居士大姉 進之助  
お供養のタオル問屋へ買いにいぬ 花車  
御先祖をだしにしている酒供養 葉  
供養の日先妻の子と坐らされ 文蝶  
永代の供養と書いてけりをつけ 文秋  
簡単にすまず供養が派手になり いさむ  
お経より供養の酒を待ちかねて 梅里



お供養の好みも船場島の内 古方  
お供養が来たのでお供へ持つて行き 静馬  
お供養に出すお菓子まできつて来 花車  
お供養をボクにに入れ呑み歩き 没食子  
お供養のリンゴデパートから届き 梅志  
お供養が届き二号をあわてさせ 圭井堂  
通りがかりへもお供養の菓おこせ 豆秋  
追善会扇子が先にくる景氣 梅里  
供養悲劇の人になれたまゝ 茶仏  
供養して浄土にいるを信じ切り 牧人  
此の次は俺さと供養の座の笑い 淡舟  
租供養のみかんが子の手からこぼれ 紫香

兼題「アルバム」 松江梅里選

アルバムの頁を追うて子が育ち 昌男  
アルバムに言訳をする顔がおり 陽子  
アルバムを出せば親戚まできかれ 梅志  
アルバムへきかん坊主の顔に撮れ 葉  
写真帳破局の恋は剥ぎとられ 杜的  
おカッパの母へ子供が笑いこけ 牧人  
アルバムに張り切っている赤澤 豆秋  
母ちゃんを探すアルバムもあつて 葉  
アルバムにまだ初恋は生きている 久志  
恒明

アルバムへ又揉めそうな横坐り  
アルバムへ角度を変えて見る女  
アルバムに恋のかけらが生きている  
問題にされる写真を抜き忘れ  
アルバムでも御覧に入れた座をはずし  
妻のアルバムを割がし失恋したらしい  
アルバムをこの辺までは売ってはい  
アルバムの女の顔へ爪のあと  
アルバムを焼いてひっそり再婚し  
アルバムは竹の園生という口絵  
アルバムにはつとまきさそのまんま  
アルバムを女が囲む賑かさ  
アルバムから見合に一枚抜けて出る  
追憶は此のアルバムに秘めて持ち  
アルバムへつけたいのなは張らんとき  
アルバムの女性新妻みなたずね  
アルバムへ誰も知らない恋を張り  
成長の順にアルバムお目にかけ  
アルバムのこゝから妻に先立たれ  
影がうつかったアルバム出してくる  
アルバムに我れ若き日の紺紺  
アルバムへ貼れぬ写真は別に持ち  
待たされてまた見せられた写真帳  
席題「コンピ」 丸尾潮花選

終電に今夜も酔うているコンピ  
舞台はどコンピの息の合わぬ酒  
惚れている方がコンピを悪く云い  
噂にもならずコンピでいる二人  
名コンピ笑ったとこを写される  
コンピもう終電過ぎたのも忘れ  
末席へきつちり並ぶ名コンピ  
家庭争議のもとコンピ美人すぎ  
汚職までコンピ一緒にのつてのけ  
名コンピ昔のネタを又使い  
楽屋口コンピ何やら打合わせ  
そぶりだけ見れば夫婦でないコンピ

井平 小松園 没食子 黙平 好郎 立兒 茶仏 三司 小松園 雅堂 一三夫 好郎 潮花 月都 高志 博也 博也 葉乙女 季贊 雅堂 梅志 生々庵 進之助 梅里 逸名 飄太 妄夢 いさむ 杜的 紫香 永断 杜的 文蝶 杜的 与呂志 いさむ 進之助

発送は夫仕入は妻の役  
ばかは馬鹿なりにコンピを探して来  
コンピ淋しい死め日話を話して来  
席題「ナイター」 福田妄夢選

延長になったナイターまだ明し  
居残りにしてナイターの外野席  
ナイターへこれだエーエーちびり下駄  
涼みながら来たナイターで蚊に喰われ  
ナイターで酔った野次り  
ナイターでまた同姓が呼び出され  
ナイターへ呑み友達がかきこに来  
ナイターの隅でチウウイグムの恋  
ナイターを見に行く云う仕舞い  
ナイターへ野球の知らぬ妻も連れ  
ナイターで約手の期日思い出し  
ナイターの帰りを詰めた発車ベル  
ナイターで引いた風邪と云いそれ  
夜遊びと云われナイター 不服なり  
ナイターの連れを浮気間違ひ  
ナイターへ月を見に来ただけのこと  
ナイターの帰りがビルから崩れ  
ナイターを見て来たこに帰る  
ナイターの外野は虫の声を聴き  
ナイターで丁度おち合う共稼ぎ  
ナイターの興奮車カッまでつゞき  
ナイターはどつちでもよい二人の手  
席題「三枚目」 小川恒明選

三枚目インタビュにちとあて  
アチャコよりうまい三枚目  
三枚目二枚目半もやりのたがり  
三枚目恋と云う字に見放され  
三枚目そろ／＼おつむが薄うなり  
三枚目握手が出来る役が付き  
三枚目又あんみつをおごられ  
わが子には舞台鑑させぬ三枚目  
飲みに行く時には附いて三枚目  
今はもう親を恨まず三枚目

紫香 凡茶 十悟 文秋 牧人 淀月 美恵子 高志 庸佑 杜的 美恵子 水堂 凡茶 凡茶 潮花 永断 豆秋 淡舟 梅里 三司 妄夢 与呂志 好郎 月都 梅里 雅堂 黙平 六龍子 一三夫 淡舟 立兒

三枚目此処に映画の虫がいた  
お人好しだけでは三枚目つまら  
お白粉は塗らないでもない三枚目  
三枚目腹からでない芸に生き  
三枚目ほんとの恋と見てくれず  
打合せもせず三枚目にしまし  
三枚目の存在だった父だった  
三枚目あつさりカットされちま  
三枚目ならば使える顔だとさ  
恒明

維川 ハワイ支部句会（ハワイ） 古川魔花麗選

骨太の指誇りたい楽隠居いつ生  
太い指生活の姿覗かせる迷朗  
見せられぬ涙小指でそと拭く虹橋  
婚約の指輪へ生命賭けた恋泉水  
満ち足りた気持で祖母はテレビを見  
テレビニニニ故郷の春へ遊ばせ  
夫婦喧嘩テレビを買って立直り多江子  
TVも好きが違い親子揉め砂丘  
テレビ見た後は按捺のいるお年銀水  
テレビ塔ボカリ／＼と息をつき斧平  
TVをとめに来た母坐りこみ北海  
TVのクイズへはつとする答笑流  
家屋敷テレビ皿まで月賦なり旋風  
大写しテレビ微かな遠慮せず曉舟

維川 阿倍野支部句会（大阪市） 菊沢小松園選

秘めてある異へそは誘い込み柳の芽  
異秘めて遠出を誘うバツカード 六龍子  
わな、わな、わな金を支払って出たけし  
辞表もう出してしまった後があつさりし  
軽はずみだったと後があつさりし  
寛ろいで茶漬に座る旅帰りの梅里  
酒の座を妻は茶漬でけりをつつけ  
泣きじゃくり乳房へする子にわびて  
バンドした乳房で春の風を切り文樹秋

品質優良  
**タチカワペン**  
TACHIKAWA PEN  
タチカワペン  
タチカワゼム  
タチカワ画簞

大坂市東区常盤町一丁目十一番地  
立川ペン先株式会社

天才を育てた乳房のしなびよう  
口癖の偉くなって年を取り勇  
口癖へハイと素直に返事だけ逸人  
婆さんの口癖ありがたや／＼突破  
口癖を聞いてる方が気にしだし文秋  
鍵かけた手提金庫ごと盗られ十悟  
奥さんへ秘密の鍵も一つ持ち豆秋  
鯛茶漬都会の朝を起される小松園

維川 玉造支部句会（大阪市） 清水白柳子選

倦怠期退屈のお茶はるにがし一栄  
退屈へ押売派手なベルを押し進之助  
退屈はしても手伝うとわ言わず柳安子  
掃除残して来てベア屋で退屈し登志子  
退屈もささず上手にこき使ひ文秋  
三時四時欠伸叩いている門衛清子  
斯る世に勿体なくも退屈し六龍子  
日曜の午後に退屈させた雨井平  
退屈を知らざるものは大公望雅美  
女持ち買えば背中をたたかれる凡九郎

退屈に溺れかけてはひげを抜き 佐一郎  
まだ辞めぬ頃の退屈さちがい 梅志  
あきらめてから退屈を感じたり 白柳子

淀川支部句会 (大阪府)

武部香林選

末っ子の畏わん／＼と泣くはかり 文児  
口先が一寸滑った妻の顔 山舟  
離婚してから口紅濃ゆくなり 陽子  
口先と腹と違えて金を貯め 葵丘  
意地からの離婚周囲へ腹を立て 若菜  
幸福は離婚の記事を語り合い 札司  
あこがれたネオンの街は異だった 東洋男  
三度目の離婚ぐらゐとハリウッド 多志  
口先の甘きに蟻のつくごとし 香林  
別居して離婚の肚が崩れて来 水堂  
三行欄外と知りつゝ失業苦 花村  
慰藉料を退職金のように取り 清生  
離婚する話の膝で子が笑い 幽谷

京都支部句会 (京都市)

田中島俊報

新入が来たなと患者壁に見る 紫蘭  
白砂を盛って禅院音もなし 鳥雀  
叱られては患者の若いお母さん ゆきら  
鑑札に役人 犬の値を尋ね 幸男  
役人に鯛の眼玉の気味わるし 龜生  
かいしうであるとは夫の都合よき 親一  
煮て呉れた夫え笑いこけるもの 司郎

大聖寺支部句会 (石川県)

野村味平選

花の山もう三の糸切れたまま 幸路楼  
春耕の今日もたのしい日本晴れ 光徳  
水温るぬ陽気へ祖父の釣手入れ 武雄  
陽気な娘母の借着を説き明し 武富  
物忘れ陽気の加減にして笑い 醉羊

備前支部句会 (岡山県)

浜田久米雄報

みみずとは言わず飲まして熱を下げ 万女  
ブリキ罐夜中の雨を知せて居 柳風子  
かんしゆくのやり場にブリキ罐あり 久米雄  
ブリキ罐叩けば鶏が飛び上り 幸仙  
精進の煎干だけを鶏を取り除き 東岸子  
精進へさつばり浮かぬ顔で吞み 娛句案  
夕焼へ釣れない竿は腹が空き 葵丘  
握り飯釣師みずの手でつかみ 正州  
母の日もやっぱり父は酔うて居り 幽谷  
今日此処へ来ると絵／＼出しておき 伊久野  
精進の膳には猫も近よらず 永流  
鼻ひげを宝の様に大事がり 一声  
精進の席で線香の香が匂い 操  
春光がホルモン注射よりも効き 陽子  
夕焼へばつかり亡母の顔が浮き 万女  
逢引へ夕焼赤う／＼見え 逸名  
夕焼に窓の敷るがぬれて居り

小松支部句会 (石川県)

伊藤茶仏報

大安の日を靴脱ぎに揃う下駄 みどり葉  
道具みな揃って嫁の口がなし 茶の香  
待たすだけ待たせて課長宴につき 芳子  
お揃いの事務服色気にちと淋し 清一  
日溜りのままごと下駄がぐ揃い 一進  
顔ぶれの五升に二本追加させ 千太郎  
声変り帽子のかわりようがあり 松水

高知支部句会 (高知市)

大西迷窓選

相談に来たのが子供褒めており 光雄  
新入生の悩もうん／＼聞いてやり 和子  
捨てに行く相談犬は耳を立て 裕子  
相談の下心ある酒肴 留子  
年頃の相談やっぱり母に言い 千吉  
相談を又持ち込まれる年になり 康子  
相談に行ったが門をくぐりかね 古城  
相談がある時だけの便り書き 左千子  
甲子園ラッキー／＼で輪を作り 順之  
相談に行きたいけれど義理もあり 利子  
相談はこちらがしたい金のこと 実  
さあ春だ春だお金に相談し 寛  
相談に来て相談をされて去に 俊江  
相談に乗ってやる気の猪口を受け 一周坊  
日曜は子の自転車守で暮れ 千津子  
助産婦へ行く自転車あわてよう 蘇水  
人好へ金の借り手の多いこと 良一  
席一つ人好同志の譲り合い 千賀子  
人好では食えぬと意見されており 常香  
頼りないやつちやお人は好いけれど 正雄  
おつかない社長呑み屋じやお人好 直喜  
お人好だけの夫で物足らず 松風  
自分でもお人好だと気付いてゐ 蟠蛇  
あの口調だったらお人好らしい 白秋

声変り大きい明日が待っている たつ路  
声変り矢つ張りよその子が早い 正明  
声変り金の無心を立つたまま 城南  
声変りして人間の幅が出来 若浪  
初対面意外でしたと言う若き 宗太郎  
街録へ一口だけの声をのせ 芳朗  
水原を脱した電波ほつとさせ 正柳子  
ささやかな趣味が電波に乗った朝 千里  
事故現場からの電波は泣き／＼ 茶仏

下関支部句会 (下関市)

石川侃流洞報

先輩の揮毫家憲になって無事 吞喜坊  
名が売れて揮毫を少ししづれる 侃流洞  
揮毫今日日本一の筆をおき 九呂平  
金にする花温室で育て上げ 蘇人  
温室で季節を作る人の智恵 木陽子  
温室へ季節を忘れた花が咲き 茂美  
温室の花がベッドに匂う朝 吞天坊  
引越しのたびに家宝を持て余し 榎川  
よこしまな恋子宝を軽く捨て 吐泉  
国宝のカビを拝観して帰えり 藤四郎  
長生目の翁へ小遣せびりに来 伊三男  
三度目の後妻嫁で又ならび 伊三男  
交際をさせて見ては母乗気 雲峰  
交際の紐をたぐって職に生き 一規  
悪友と切れず空虚な酒の色 白陽子

色紙短冊  
書画用品  
大坂戎屋  
丹精堂  
も申せしや

川 倉敷支部句会 (倉敷市)

相原一善選

妾宅の牛乳洗顔用でした  
夢多き人生夢を追うただけ  
文盲の意地大学へ子を送り  
やもめ暮し牛乳にあきパンにあき  
鯉のほり無駄だと酔うてまじし立て  
牛乳を且那来ぬ日は猫にやり  
思い切り里一番の鯉を立て  
まな板の鯉の度胸が羨やまし  
牛乳に美容体操パンを食べ  
一年生便所と下駄箱まず習い  
学校が隣で屋も温い飯  
保母さんの化粧を園児まぶしくみ  
どん底の夢宝くじ買うて来る  
愛情の質問保母をまごつかせ  
女学校だけはと母の賃仕事  
借金をたき返した夢を見た  
あの手この手ゴム風船を児に持たせ  
学校で歌えぬ歌で鐘ならし  
肩書のための学校びりて出る  
電灯を消したところで夢が覚め  
共稼ぎもう牛乳とパンに飽き  
顔色も変えず婆さんのろけだし  
学校へ行くほど親が馬鹿に見え  
保母さんも家は子供をく叱り  
娘のろけ母そうかいなうかいな  
ゴム消ができない子程小さすぎ  
芸妓にも学校のある文化国  
水雲院

川 宇部支部句会 (宇部市)

津秋六花選

どじや降りへ和服に雨靴はかされる  
どじや降りが取りもつて呉れた二人仲  
蚊帳吊つてからが楽しい夢と夢  
駄々子の様に雨足強うなり  
実男

新築へ保険ずうく又も来る  
裏付けも揃い刑事の強氣に出  
万円を端とぬかす程儲け  
涼風を蚊帳をたよりに開けて寝る  
はした金だから女給は媚びて来る  
もう少し強氣があればと惜まれる  
妻となる覚悟蚊帳にもはじらいて  
女の強氣涙で抗議する  
義平

川 弓削支部句会 (岡山県)

直原七面山選

十字路へ別れたくない影が付き  
十字路で美人四方の眼を感じ  
淋しさに吹く口笛はすぐかすれ  
口笛が希望の春の空にとけ  
口笛を吹いてドライの娘の炊事  
お見合へ舞台装置の花を生け  
舞台から下りれば母の膝が待ち  
華かな舞台は知らず切符売り  
舞台での十七楽屋で孫を抱き  
失恋の涙をさそう春の雨  
善人の催促貰い泣きで去に  
泣きじやく子へ後悔の添寝をし  
どんなにもならぬ涙を拭いて立ち  
改心が母の墓標を抱いて泣き  
四季咲きのバラの蕾が春を待ち  
試歩の杖真白きバラをかいで去に  
生活も助けて趣味のバラ作り  
只世

川 米子支部句会 (米子市)

小西雄々報

不朽洞会員祝賀句会

世渡りに損ばかりする内弁慶  
童顔も髪を薄さをかくされず  
見覚が枕をゆするほどに鳴り  
雄々

川 篠山支部句会 (兵庫県)

小西無鬼選

ハイキングもう雨蛙ケチをつけ  
雨蛙その忙しさへ拍車かけ  
雨蛙ホームシックにさして飛び  
雨蛙思案の窓へ邪魔をする  
親切な口にかゝった都会の灯  
見習うている時よりは隙が見え  
隙間からやと鼻だけ出して吠え  
春風へパスはほこりをまいて行き  
千草

春風にオーバは何処で脱いだら  
花びらが飛んで素な風をほめ  
春風のサイクリングに追い抜かれ  
受付へそと出したに皆んな向き  
受付のザーマス婦人にちとあわて  
受付で折弁当と二合瓶  
受付の腰を上げさす名刺出し  
一雨

大阪通信病院川柳会

麻生路郎先生選

初夏の風くぐりぬけるワンピース  
ワンピース娘の線になりきらす  
尻馬にのるなと妻に意見され  
割切れぬ役だが面ン子捨てて受け  
ヒロインであつて二号の名に生きる  
役不足でやつた芸だが拍手され  
役不足顧問の地位が気に入らず  
役不足いえた義理かとほつこかれ  
役不足PTAのもめること  
ヒロインを情婦と呼んで刑事室  
風邪ひいたことに出ず役不足  
路郎

季節一品料理

江戸前にぎりずし

アベノ橋地下映画食通街

大 萬

梅里の店

★大万川柳(第七十八回)を募る  
兼題「あけ底」路郎先生選  
締切・八月十五日 句数五句以内  
発表・八月廿一日 (府内発表)  
授句は 阿倍野区松崎町三丁目  
一〇 大万川柳会宛

らか室集編



一路郎

★暑い夏の夏が、降りつづく雨のためにかなり涼しい日が多い。なんとしたことであろう。異変がなければいいが★前号はすばらしい出来栄えだと好評であった。編集に携わっているものにとつてはこれに越したよろこびはない。旬日も経たないうちに、本社では売切れてしまった★七日には私の古稀を祝うために、不朽洞会員の手で大会が催されたが、雨の日にもかかわらずロビーにまであふれる盛会ぶりだった。雨が降らなかつたら二三割は上廻ったであろうと役員がソロバンを弾いていた。記念撮影に全員が這入りきれなかつたのもうれしい悲鳴であった。柳友知己からも盛んな協力があつたし記念品も沢山いただいた。自分としては感謝するに言葉がなかつた。今後も御支援と御べんたつによって私の川柳生活を意義あるものにさせていだきたい★大会の翌日、私は首を動かすのに痛みを覚えた。大会当日、来賓室で会場で、長廊下で、久しぶりの誰れ

彼れにアタマをさげたのが原因らしい。私の一生で翌日首の廻らぬほどお辞儀をしたのはこれで二回目である。二度あることは三度あると云うからこの次は喜寿の時なのであろう。早速当日いただいたサロンパスを貼ることを忘れなかつた。サロンパスは老婆の舞踊を見ていただくために皆さんに差上げた管であるが、私の首の廻らぬのにまで役立つとはイヤハヤである★お盆(八月十六日)の日の午後八時五分から九時まで約一時間にわたつてNHKの第二放送から川柳を入れたよもやま話を浪沢秀雄氏(東京の実業家)の司会でやることになった。東京側は川上三太郎前田俊郎、大阪側は岸本水府と私の四人である、どんな話が出るか★大阪市の秋の文化祭の市民川柳大会は十月十三日(第二日曜)に毎日新聞の三階講堂で開催の予定だ。詳細は何れ報道するが大阪市民を対象に出来るだけ文化の花を咲かせたいものだ★近來、各地の柳誌がだん／＼よくなつてゆくのでよこんでいる。柳誌は一部柳人のノート代りに出すものであつてはならない。いい柳誌は社会のものである★金沢での北国川

柳大会がいよく近づいた。金沢は曾遊の地でもあるから古くからの柳友にも会えるし、殊に「北国柳壇」の熱心な作家達にも会えると思うとユカイだ。少々はムリをしても顔を見せて欲しい。私は日本の柳界のために働いているのであるから、流派などは問題にしていなくて、その点はよく知つていて欲しい。路郎に会つて叱られたと云う人はあつても損をしたと云う人はいない管だ★近く編集スタッフも強化したいと思つていたので太いに自薦他薦をやつて欲しい。よくするための改革なら誰に遠慮も要らない★現在の編集に対する意見、希望もドン／＼寄せられたい。実行にうつせるものなら断行にやぶさかでない。

不朽洞

会から

▼常任理事会  
——七月三日  
午後六時から  
南区三休橋の中島生々庵居で開催。路郎先生の古稀祝賀川柳大会の横袋の整理や他の打合せを協議した。当夜の出席者は、路郎、生々庵、栗、紫香、いさむ、ゆづる、恒明、好郎、古方、小松園、多久志、文蝶、没食子、白柳子、暇子、賀峰、水客、十悟、雅美、梅里、小石、宏子。

▼常任理事会——七月十七日午後六時から南区三休橋の中島生々庵居で開催。議事としては  
一、路郎先生の古稀祝賀川柳大会の会計報告と剰余金処分承認。  
二、大会あと始末の件の報告。来賓、スポンサー(記念品添)挨拶状発送。  
三、寄贈品の残余処分(旬会部へ一任)  
以上  
会議の後では先生から頂いた酒ビールで十分飲を尽しました。そして先生の来るべき喜寿の御祝は一層盛大にやろうと語り合った。出席者は生々庵、いわを、十悟、暇子、水客、紫香、潮花、恒明、白水、摩太郎、小松園、梅里、文蝶、好郎、栗、小石、阿茶、多久志  
▼退会——中谷仙坊氏、吉形苑女  
▼新会員紹介——七月入会  
山本立児氏(大阪市)正会員 豆秋氏推薦  
林 葵氏(岡山市)正会員 久米雄氏推薦

豪雨禍御見舞

水害史上空前の惨事へ九州柳友の御安否に心を痛めております

川柳雑誌社

川柳雑誌社

麻生路郎

暑

麻生 霞 乃  
西 尾 栗  
編集局

中

北川 春 巢  
戸田 古 方  
清水 白 柳子  
八木 摩 天 郎  
丸 尾 潮 花

御

真 鍋 一 瓢  
水 谷 竹 莊  
不二田 一三夫  
句会部

伺

黒川 紫 香  
総務部  
武部 香 林  
林 宏 子

暑中御伺

中島生々庵

中島小石

大阪市南区鰻谷仲之町二〇番地

(七月現在)

贊助

土井文蝶

德永雅美

黃  
瀬  
美  
秋

白井三林坊

多  
胡  
春  
洋

安部  
部  
立  
美

林口  
葵丘

課題吟募集

川柳桑詩承

發行所  
川柳雜誌社

撰替口座大取 七五〇五〇

# THE SENRYU ZASSHI

NO. 363

Published monthly by Senryu Zasshisha, Osaka, Japan.



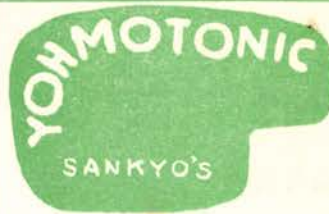
大阪・名古屋・伊勢を結ぶ  
暑さ知らずの夏の旅  
座席指定・ノンストップ

## 近鉄特急 全列車冷房

|          |        |
|----------|--------|
| 大阪—名古屋   | 2時間35分 |
| 大阪—宇治山田  | 1時間54分 |
| 名古屋—宇治山田 | 1時間34分 |

|             |             |             |
|-------------|-------------|-------------|
| 大阪上六車       | 名古屋車        | 宇治山田車       |
| 7.40 15.40  | 8.00 16.00  | 8.40 16.40  |
| 8.40 17.40  | 9.00 18.00  | 9.40 18.40  |
| 11.40 19.40 | 12.00 20.00 | 12.40 20.40 |
| 13.40 ***   | 14.00 ***   | 14.40 ***   |

本社 大阪市天王寺区上本町6  
**近畿日本鉄道**




伝統と不断の新研究を  
高き香の中に生かす

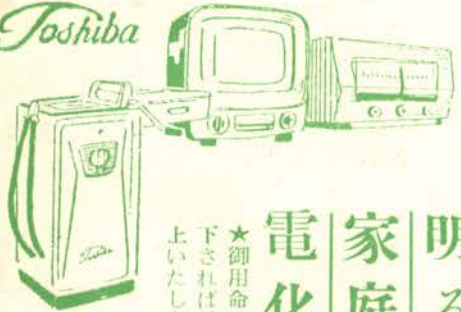
## 養毛料なら

三共の本~~の~~養毛料(強力女性ホルモン入)

# ヨモトニック

フケ、カユミ、抜毛、薄毛、若禿の防止、美髪保存に

¥150, ¥250, ¥420, ¥1,000

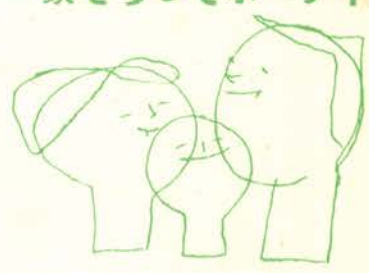
★御用命はお電話  
下されば係員が参  
上いたします

## 明るい 家庭は 電化で

# 日本機械株式会社

本社 大阪市南区末吉橋通四丁目十六番地  
御堂筋新橋北詰新橋ビル  
電話 船場(25)1856(代表)~7番

## 一家そろつてホーライ党



## 廣東料理

# 蓬萊

大阪なんば・TEL ④551—2